

PLAYS 3000

この度はシマノ PLAYS 3000 をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
本製品の機能を十分に引き出し、末永くご愛用いただくためにも、使用前にこの取扱説明書をお読みください。
なお、取扱説明書の内容は予告なく更新させていただくことがあります。最新版はWEB版をご参照ください。

安全上のご注意	2	S A-RB	49
特長	8	船べり自動停止	50
デジタルカウンターの各部の名称・メニュー画面の操作	10	アラーム(船べり)	52
メニューで設定の変更が可能な機能一覧	12	棚または底の水深をメモリーする方法	53
各部の名称	16	棚アラーム	54
電源とケーブルについて	17	2通りの棚の取り方・上からモードと底からモード	55
学習方法	18	上からモードの実釣編	56
学習モード一覧	19	底からモードの実釣編	57
学習方法1.「下巻きをしない」かつ「これから巻き取るラインの長さが正確に分かる場合」PEライン学習(E1)	20	さそいの準備	58
学習方法2.「下巻きをしない」かつ「これから巻き取るラインの長さが正確に分かる場合」ナイロン・フロロ学習(E2)	22	さそいの学習	60
学習方法3.「下巻きをする」かつ「これから巻き取るラインの長さが正確に分かる場合」下巻き学習(E3)	24	釣りでさそい機能を使用する	63
学習方法4.「下巻きを完了している場合(ラインを巻き替える場合)かつ「これから巻き取るラインの長さが正確に分かる場合」下巻き学習(E3)	28	仕掛回収時間	66
学習方法5.「下巻きをしない」かつ「これから巻き取るラインの長さが正確に分からない場合」PEライン学習(L1)	32	フカセモード	67
学習方法6.「下巻きをする」かつ「これから巻き取るラインの長さが正確に分からない場合」下巻き学習(L2)	34	糸巻学習補正	69
学習方法7.「下巻きを完了している場合(ラインを巻き替える場合)かつ「これから巻き取るラインの長さが正確に分からない場合」下巻き学習(L2)	38	お取り扱い上の注意	72
学習方法8.「引」出学習をする場合」かつ「すでに糸巻きが完了している場合」引き出し学習(P1)	42	仕様	78
色々なテクニック	44	故障かな?と思われたときは	79
0(ゼロ)セットの設定	46	製品のお問い合わせ・アフターサービスのご案内	81
高切れの補正	48	サービスネット	82

安全上のご注意

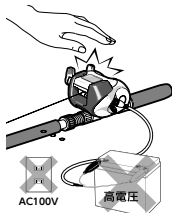
ご使用前に必ずお読みください。

警告



高温注意

- バッテリー、船電源の所定電圧 (DC 12 ~ 16.8V) 以外を使用しないでください。所定の電圧以外を使用すると、電動リールが発熱し、カウンター部の電子部品の破損や、手を火傷する恐れがあります。
- 家庭用交流電源につながないでください。回路が破損し発火発煙の恐れがあります。
- 電源コネクターやワニ口クリップに異常な発熱があった場合は、使用を中止してください。



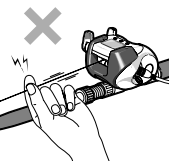
警告

- リチウムイオンバッテリーを使用する際は、シマノのリチウムイオンバッテリーをご使用ください。他社メーカーのリチウムイオンバッテリーを使用された場合、リールおよびバッテリーが破損する場合があります。



巻き込み注意

- 糸が勢いよく出ている時、又は、糸を巻いている時に糸を掴んだりしないでください。糸で指を切ったり切断する恐れがあります。



警告



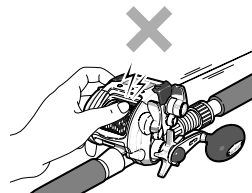
警告

- 電動リールのブレーカーが何度も作動するような場合は、対象魚/シカケの負荷に対して電動リールの仕様が適合していないと考えられます。そのままご使用になられますと、モーターやカウンターユニットが異常な発熱を起こし、焼損する場合があります。この場合は電動リールの番手を上げてご使用ください。



回転物注意

- 指を本体とスプール等の回転部に差し込まないでください。指を怪我したり、切断する恐れがあります。



警告

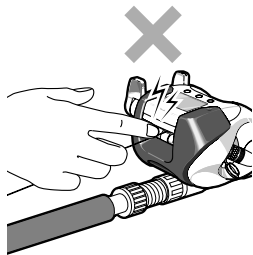
- 船電源、鉛バッテリー等をご使用になる場合は低電圧でご使用にならないようお願いします。デジタルカウンター表示部にバッテリーマーク (🔋) または (🔌) が点灯、点滅している状態で、高負荷巻き上げ (大電流が流れる) を行いますと、デジタルカウンター内部の電子部品が破損し、レンズが飛び出る場合があります。

警告



指をはさまれない よう注意

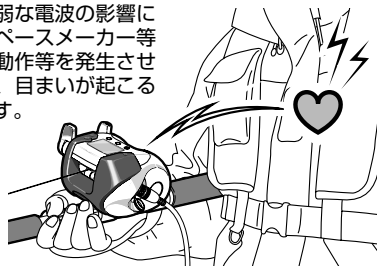
- 糸をリードするレベルワインドの所に指を近づけて、釣りをしてください。指をはさまれて、怪我をする恐れがあります。指をはさんだ場合は電源をOFFにし、電動リールを解体してください。
- ハンドルとボディの間に手をはさむと、けがをする恐れがあります。



- 電動リールの微弱的電波の影響により、補聴器・ペースメーカー等の医療機器に誤動作等が発生させて使用者に動悸、目まいが起こる場合がございます。



警告

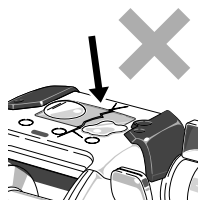


警告



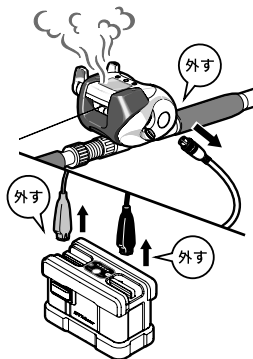
警告

- カウンターレンズ内側に水滴や曇りが見られた場合は直ぐにケーブルを外してください。そのまま使い続けると、誤動作し穂先を折ったり、破片で怪我をする恐れがあります。
- 電動カウンターのレンズやケースにヒビ割れ、クラックがある場合は使用を中止してください。水が内部に侵入するとショートして回路が破損し、モーター制御が出来なく恐れがあります。



警告

- 電動リールやカウンター表示部から焦げ付いた匂いや煙、異常な発熱が出た場合は直ぐに使用を中止してください。そのまま使い続けると発火発煙の恐れがあります。
- 巻き上げが止まらない場合は直ちに電源コネクターを外すか、バッテリーからワニ口リップを外してください。

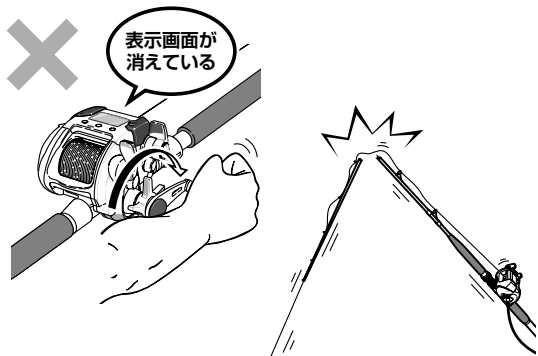


⚠ 注意



注意

- 電動リールをご使用中、表示画面が消えた時にリールのハンドルを使用し巻き上げると、正常にラインのカウントが出来ません。（※ラインとカウント表示に誤差が発生します。）そして表示画面が復帰後、電動リールのモーターで巻き上げると船べり停止が出来ず、仕掛け巻き込みの原因となります。場合によっては穂先を破損する可能性がありますので、表示画面が消えた場合はその原因を取り除き、表示画面が復帰した後でライン回収を行ってください。



⚠ 注意





注意

- メッキや塗装等の表面処理が剥がれたり、強い衝撃等により素材の表面が鋭利になった場合には、その部分に触れないでください。けがをする恐れがあります。



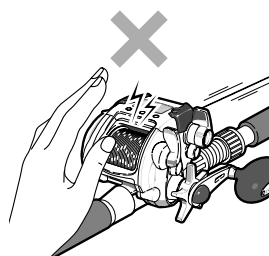
注意

- バッテリマーク（ または ）が点灯、点滅している場合はバッテリー電圧が低下しており、電動リールの性能を十分に発揮できないだけでなく、モーター、カウンターユニットに負荷が加わり故障の原因となる場合がありますので、使用を中止し十分に充電したバッテリーに交換してご使用ください。



回転物注意

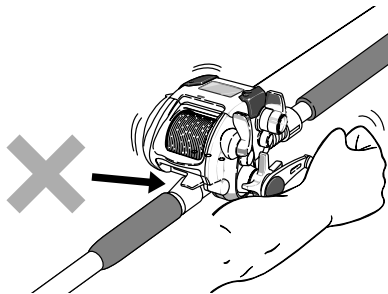
- 回転しているスプールに触れないでください。けがをする恐れがあります。



⚠ 注意

⚠ 注意

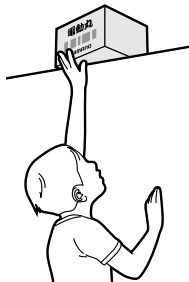
- 電動リールはリールシートにしっかり固定してご使用ください。ガタ付きがある場合や固定出来ない場合は、ご使用を控えてください。釣行中に外れたりすると、怪我を負う恐れがあります。



⚠ 注意

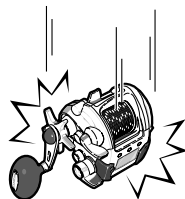
⚠ 注意

- 幼児の手の届く所では、保管、使用しないでください。



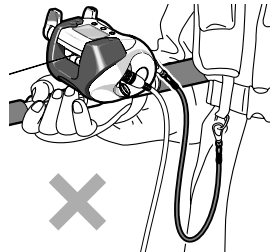
⚠ 注意

- 落下等の衝撃によりカウンターが破損し、誤動作する恐れがあります。強い衝撃が加わらないようにしてください。



⚠ 注意

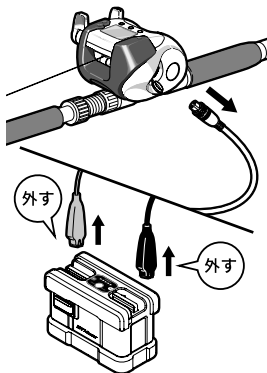
- ケーブル等を身体に巻きつけたりしないでください。魚のヒキによっては海に落ちる可能性があります。



⚠ 注意

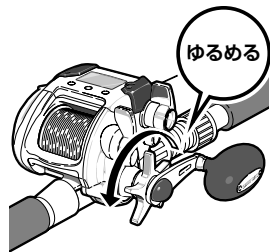
⚠ 注意

- 釣行後に電動リールをメンテナンスをする場合は、必ずケーブルをバッテリーから外して行ってください。急にスプールが回りだしたりすると、怪我や電動リールの破損の恐れがあります。



⚠ 注意

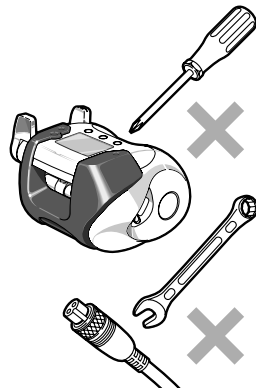
- 電源をつなぐ前に、必ずドラグを十分にゆるめてから接続してください。故障時にモーターが回り放しになり、仕掛けを巻き込み、竿を破損する恐れがあります。



⚠ 注意

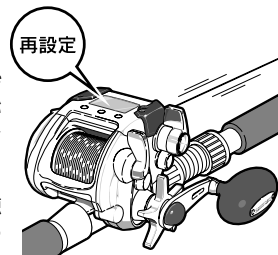
⊘ 分解禁止

- 本体を改造したりしないでください。電動リールの性能を損ない、安全機能が動かなくなり怪我をしたりする恐れがあります。
- ケーブルの改造はしないでください。電動リールの性能を損なったり、発熱や発火する恐れがあります。



⚠ 注意

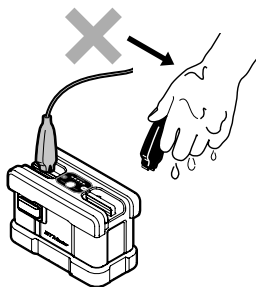
- 船べり停止位置は巻き上げ張力等によってズれる事があります。停止位置がズれてきた場合は「0セット」して補正してください。停止位置がズれると竿の穂先を折ったりする恐れがあります。



⚠ 注意

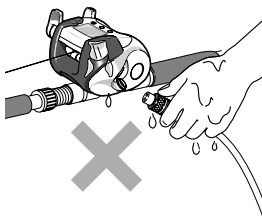
⚠ 注意

- 濡れた手でケーブルのフニクリップの金属部やバッテリー、船電源の端子を触らないでください。感電する恐れがあります。



⚠ 注意

- ケーブルを電動リールに接続する時は、端子部が濡れていない事を確認して接続してください。濡れていると海水によりショートと発火、発煙し火傷する恐れがあります。



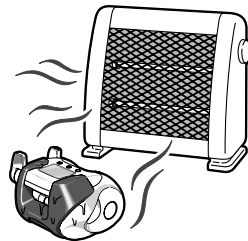
注意

- 根掛かりした時は竿をあおらず、糸をロッドキーパーや、しっかりとした船べりに巻きつけ、船で糸を切るようにしてください。

⚠ 注意

⚠ 注意

- メンテナンス後にドライヤーや発熱器具を使っての乾燥は止めてください。樹脂が変形したりする恐れがあります。



モーターの誤作動についてのご注意

- 落下等の強い衝撃により表示部に破損やクラックが起り内部に海水が浸入した場合、モーター制御が出来なくなる事があります。突然、糸を巻き上げる等の誤作動により怪我をする可能性がありますので、表示部のクラックや破損を発見した場合は、ケーブルを抜いて即座に使用を中止し、お買い上げの販売店へ現品をお預け願います。またお近くシマノ商品取扱店がない場合は、最寄の営業所へお問合せください。
- 本電動リールの使用電源保証範囲はDC12~16.8Vまでです。これより大きな電源や家庭用交流電源等を使用した場合、表示部の電子回路が破損しモーター制御が出来なくなります。また、発煙発火の可能性もありますので、必ず使用電源をご確認の上、使用してください。

特長



糸ふけを取る時やさそいをする時に…

チョイ巻 …………… P10、13参照

ボタンを押している間、電動で巻き上げることができます。



コマセ振りや仕掛け回収のタイミングを計る目安に…

棚タイマー …………… P10参照

仕掛けが目標の棚に到達してからの経過時間を表示します。



穂先への仕掛巻込防止機能・アタリをお知らせ…

フカセモード …………… P67～68参照

フカセモード時は「仕掛巻込防止機能」、「アタリ検知アラーム」の2つの機能が有効になります。



錆、塩渍みに強いボールベアリング…

シールドタイプS A-RB内蔵 …………… P49参照

従来のA-RB（アンチラストベアリング）の側面に防錆素材でシーリングし、塩分の浸入を減少させたS A-RBを適材適所に配置したことにより更なるスプールフリーが実現！A-RB処理による防錆性はもちろん、ベアリング内部に浸入した塩分の結晶化による「塩渍み」をも減少させています。



このクラストップレベルの…

軽量コンパクト化を実現



さらに磨きのかかった…

ハイスピード&ハイパワーを装備



より正確に何回でも狙った水深にシカケを落とす…

0(ゼロ)セット …………… P46～47参照

シカケが水面にあるときを0メートルとして設定できますから、狙った水深に、より正確にシカケを投入できます。



竿を立てたときにシカケが手元に戻ってくる…

船べり自動停止 …………… P50～51参照

船べり停止位置が自動的に設定されますから、船べり停止後、竿を立てるだけでシカケが手元に戻ります。



シカケ回収にかかる時間を表示…

仕掛回収時間 …………… P66参照

電動巻き上げ時に、シカケが船べりに回収されるまでにかかる時間を表示します。



高切れをワンタッチで修正する…

高切れ補正 …………… P48参照

高切れした場合は、再度シカケを結びシカケを水面に合わせ0セットボタンを押してください。カウンターが修正されます。



レバー操作で巻き上げ速度と楽楽設定値をらくらく調整…
テクニカルレバー…………… P16参照



カウンターと道糸のズレを釣り場で補正…
糸巻学習補正…………… P69～71参照



メモリーした水深をメモ欄に表示…
棚メモ…………… P53参照

棚または底の水深をメモリーして表示しておけます。底からモード時はメモ位置を0とした水深をメモ欄に表示します。



メモ水深の表示方法を選択できる…
**「上からモード」「底からモード」
 切り替え**…………… P55～57参照

釣場、釣り方、対象魚など場合に応じて底からの水深を確認したい場合、メモ水深の表示方法を切り替えられます。上からモード時はメモ水深を表示していますが、底からモードを選択するとメモ位置を0とした水深が確認できます。



釣り前に確認でき、高切れ時などに便利な…
ライン残量表示…………… P13、47～48、70参照

現在、リールに巻いているラインの距離を確認することができます。



より速くシカケを落とす…
糸送り機能…………… P12、45参照



名人のさそい・お好みのさそい動作をリールが再現…
さそい動作再現…………… P58～65参照

電動リールにさそい動作を再現させることができます。さそいパターン「3段ジャクリ」「2段ジャクリ」「ウィリー」の選択、または「学習」でオリジナルのさそいパターンを入力・選択することもできます。

本文の説明中に次のようなマークが出てきた場合は…

指し示されたボタンを**3秒未満**チョイ押ししてください。

ワンタッチ

指し示されたボタンを**3秒以上**長押ししてください。

3秒以上

ご注意：
 本文の説明中に出てくるカウンター内の数値・設定などは、例として表示している場合があります。全く同じ表示になるわけではありません。

デジタルカウンターの各部の名称・メニュー画面の操作

◎テクニカルレバーの設定値

巻上げスピードを表示します(31段変速)。

◎棚タイマー

仕掛けが目標の棚に到達してからの経過時間を表示します。
※0～59秒は1秒単位、1～99分は1分単位で表示します。
100分経過すると0秒に戻ります。

◎糸落スピード表示

“[]”が点滅中は糸落のスピードの目安を表示します。
糸落のスピードを安定させることにより釣果UPにつながります。

◎フカセモード

フカセモード時は“[]”が消えます。

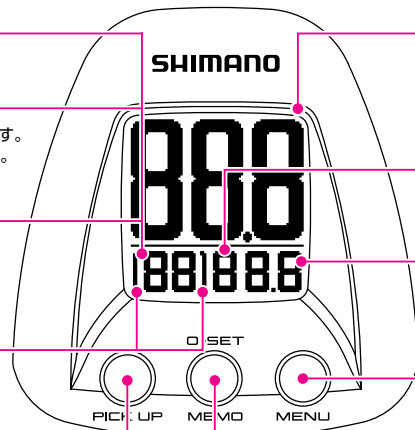
■PICK UP(チョイ巻/さそい)ボタン



チョイ巻機能が ON の時、ボタンを押している間、電動で巻き上げることができます。
巻き上げのスピードは「[0 ~ HI]」まで変えることができます。(初期設定は 15 になっています)
※チョイ巻機能を ON にしますと、さそい機能は自動的に OFF になります。
※船べり停止以降は、チョイ巻を無効にしています。



さそい機能が ON の時、さそい動作がスタートします。
途中停止、再スタートもこのボタンで行います。
※さそい機能を ON にしますと、チョイ巻機能は自動的に OFF になります。
※船べり停止以降は、さそいを無効にしています。



◎現在の水深

水面からの水深を表示します。
※水深は 10cm 単位です。
100m 以上は右図のように 1m 単位になります。

999 → 100

◎棚メモ

上からモード時はメモした水深を、底からモード時はメモ位置をゼロと表示します。

◎電圧不足のお知らせ

電圧が不足した場合に [] が点滅で表示されます。(不足時以外の電圧の状態はメニュー画面で確認できます。)

■MENU(メニュー)ボタン



メニュー画面が表示されます。
メニューから各機能の設定を変更できます。
メニュー画面の操作方法は右図をご覧ください。

■0-SET/MEMO(0セット/メモ)ボタン



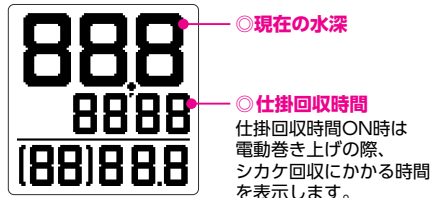
0セットします。
仕掛けを水面に合わせて0セットしてください。
※水深表示が10.1m以上で高切れ補正します。結びなおした仕掛けは水面に合わせ高切れ補正してください。



棚をメモします。
選択しているモードにより、表示される内容は異なります。

《仕掛回収時間がONの時》

下図のように「**○現在の水深**」の下段に表示されます。



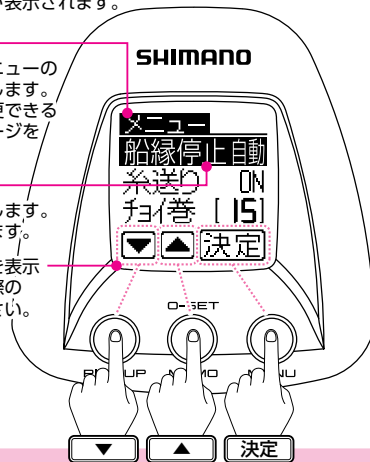
《メニュー画面の基本操作》

メニューボタンを3秒以上押すと「ピピッ」のアラームが鳴り、下記のメニュー画面が表示されます。

○メニュー画面
カーソルの移動でメニューのリストがスクロールします。メニューから設定変更できる機能の一覧は、次ページをご覧ください。

○カーソル
メニューを反転表示します。機能の選択に使用します。

各ボタンの割り当てを表示しています。操作の際のガイドにご使用ください。



各ボタンでカーソルが上下に移動します。数値の設定の場合は値が1ずつ増減します。

カーソルで選択した機能（または設定した数値）を決定します。

水深画面に戻る場合はメニュー画面から「水深画面へ」を選択し、決定してください。

モーターでの巻き上げ、もしくはハンドルで巻き上げますと、メニュー画面から水深画面に戻ります。

メニューから設定変更できる機能の一覧は、次ページをご覧ください。

メニューで設定の変更が可能な機能一覧

現在の設定 ◎メニュー画面

カーソルの移動でメニューのリストがスクロールします。
機能名の右は現在の設定を表します。
(図の設定は例です。)

前ページの操作でメニュー画面から機能を選択して決定すると、機能ごとのメニューまたは設定画面が表示されます。機能ごとの設定可能な項目は右記をご覧ください。

各機能の設定後は、メニュー画面に戻ります。
水深画面に戻る場合はメニュー画面から「水深画面へ」を選択し、決定してください。

※初期設定から設定を変えられた場合、電源を OFF されても、設定は記憶されます。

■船縁停止位置

「自動設定」と「1m～6mの範囲内で任意に設定」の選択が可能です。
※初期設定は自動設定です。

→P50～51の説明をご覧ください。



船縁停止位置を任意に設定されたい場合

▲▼のボタンを押してお好みの船縁停止位置を選択後、決定ボタンをしてください
(10cm単位)

■糸送り (自動糸送り機能)

機能のON/OFFが可能です。



自動糸送りとは、シカケをおろす時、船べり停止位置プラス5mで自動的にモーターがONになり、スプールの抵抗を極力少なくする機能です。
(例：船べり停止位置が1mの場合は6mでモーターがONになります。)

→詳しい操作と説明はP45へ

■ チョイ巻

チョイ巻スピード[1]～[Hi]の選択ができます。



チョイ巻スピードの設定

数値を▼▲ボタンで増減してお好みのスピードに設定し、決定ボタンを押してください。

※チョイ巻機能をONにしますと、さそい機能は自動的にOFFになります。

→P10の説明もご覧ください。

■ さそい (さそい機能)

さそい動作パターンの選択、オリジナル動作の入力・選択ができます。

※さそい機能をONにしますと、チョイ巻機能は自動的にOFFになります。

→詳しい操作と説明はP58～65へ

■ 上/底 (上からモード/底からモード)

上からモードと底からモードを切り替えることができます。

→詳しい操作と説明はP55～57へ

■ フカセ (フカセモード)

機能のON/OFFが可能です。

ONを決定するとアタリ検知アラームのスピード[1]～[Hi]の選択ができます。

フカセモードをONにされますと、仕掛巻込防止機能とアタリ検知アラームの2つの機能が有効になります。

※糸巻学習「フロロ学習 E2」の終了後は、フカセモードが自動的にONになります。

→詳しい操作と説明はP67～68へ

■ 回収時間 (仕掛回収時間)

表示のON/OFFが可能です。

→詳しい操作と説明はP66へ

■ 糸巻補正 (糸巻学習補正)

カウンターの水深と実際のラインマーカーのずれの補正が可能です。

→詳しい操作と説明はP69～71へ

■ LANGUAGE

日本語と英語の切替が可能です。

■ リールデータ

リールデータ(巻上距離・使用時間・ライン残量)の確認ができます。

※ライン残量表示のご注意…水深表示±10未満で0セットをされた場合は、

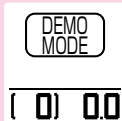
糸巻学習は 補正されないためライン残量は更新されません。

■ デモモード

モーター動作が常時可能になります。
デモモードをONにすると水深画面が下図のようになります。
※デモ画面表示後、初めに「MENU」ボタンを1回押してください。
その後、モーターが作動するようになります。



↓ MENUボタンを押すと



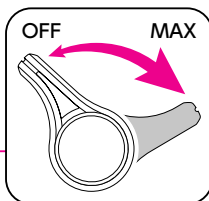
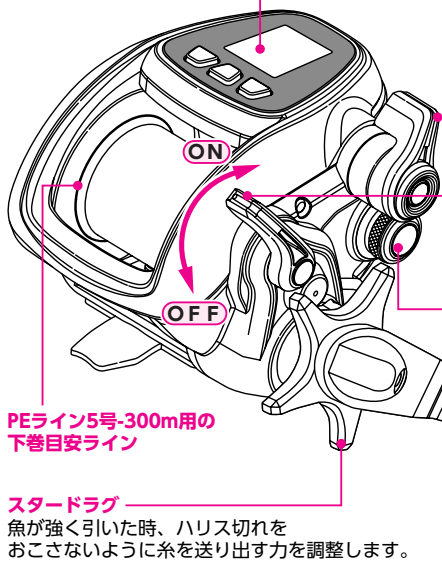
ご注意：デモモードON時のトラブル
(穂先への巻込みなど)につきましては、
一切責任を負いかねます。

■ 水深画面へ

メニュー画面を抜けて、水深画面へ戻ります。

各部の名称

デジタルカウンター



テクニカルレバー

巻き上げスピードを瞬時に調整できます。船べり停止後等で、いったん停止後の再始動時には一度OFFに戻してから始動させます。カウンター1.0m以下では安全のためレバーを動かしての巻き上げはできないようになっております。



クラッチレバー

ハンドル正転または手で戻すとONになります。

ON : シカケの巻き上げ

OFF : スプールのフリーにしてシカケをおろします。

メカニカルブレーキノブ

スプールの回転にブレーキをかけてシカケをおろす時のバックラッシュを防止します。



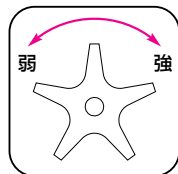
レベルwind

※巻き上げ時に指をはさまないように注意してください。

PEライン5号-300m用の下巻目安ライン

スタードラグ

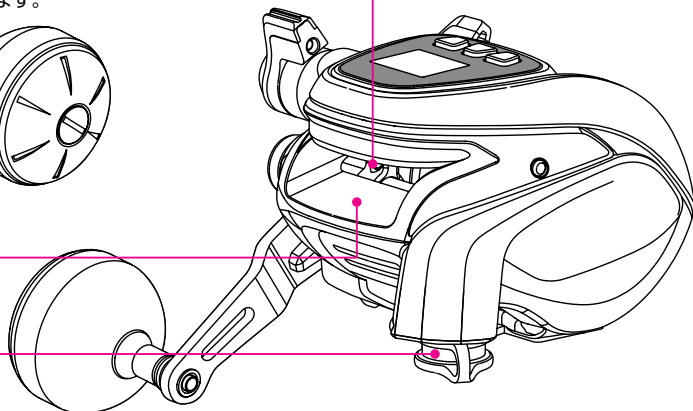
魚が強く引いた時、ハリス切れをおこさないように糸を送り出す力を調整します。



セーフティレベルwindカバー
(カウンタ部も保護します。)

電源コネクター

※ご使用時以外はコネクターキャップを取り付けてください。



1 お取り扱い上の注意

電源について

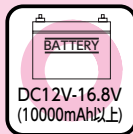
電源は公称電圧が12Vから16.8V（リチウムイオンバッテリーなど）までのものをご使用ください。リチウムイオンバッテリーを使用する際は、シマノ・リチウムイオンバッテリーをご使用ください。他社メーカーのバッテリーを使用された場合、リールおよびバッテリーが破損する場合があります。指定外の電源（たとえば家庭用の交流100V、船装備の高電圧など）ではご使用できません。バッテリーチャージャーなどは絶対に使わないでください。

- 船に備え付けの電源を利用される時は、電圧が直流（DC）12Vから16.8Vであることをご確認ください。（船のバッテリーをご使用になる場合は、12Vのバッテリーか、DC-DCコンバータにより24Vから12Vに変換されたものに限りです。）また、端子がサビていたり、電圧が安定しておりませんと、リールが正常に作動しない場合があります。
- 十分に充電したバッテリーをご使用ください。
- バッテリーは長期間使用されますと、次第に充電できる容量が少なくなります。その場合は、新しいバッテリーをお求めください。
- AC電源は絶対通電させないでください。カウンター部の故障となります。

ケーブルについて

電源との接続は、必ずシマノ純正ケーブルを用いてください。ケーブルは消耗品です。使用頻度にもよりますが、2～3年で交換することをお勧めします。

ご注意：純正以外のケーブルを使用されると、リールが正常に作動しない場合があります。また、ケーブルは乱暴に扱わないでください。踏んだり、折り曲げたりすると故障の原因となります。電源ケーブルのワニ口クリップ部はモーターの負荷によって大電流が流れると発熱する場合があります。電源端子（バッテリー端子）とワニ口をしっかり挟み込んで使用してください。本製品のケーブルは2芯タイプとなっております。6芯タイプのケーブルは使用できません。釣行時には持参するケーブルのご確認をお願いします。



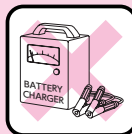
DC12V-16.8V
(10000mAh以上)



AC100V



船装備の高電圧



本製品はハイスピード、ハイパワーの高性能機種となっております。ご使用になる際は弊社、**リチウムイオンバッテリー**をご使用になるようお願いいたします。

2 バッテリーとの接続方法

- 1 バッテリーに付属のケーブルを接続してください。
赤クリップを（+）側に、黒クリップを（-）側につないでください。
※（+）側、（-）側を逆に接続した場合、リールが破損する場合があります。

- 2 リールとケーブルを接続してください。
ケーブルのプラグの凹部と、リールの電源のコネクターの凸部を合わせ、奥まで差し込んで、ネジを締めてください。
※ボタンを押しながら電源を接続しないでください。
※若干のガタが出るものがありますが、ご使用上問題はありません。



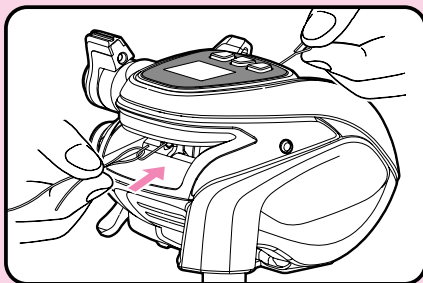
電源コネクター

コネクターキャップはネジ部より外さないでください。

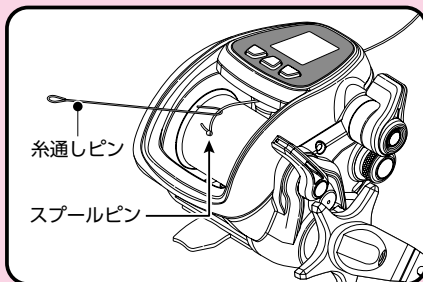
学習方法 (使用するラインの実測値をリールに記憶させます。)

糸をセットします。

- 1** 糸をレベルwindに通します。
糸を通すときは、付属の糸通しピンを使用することをおすすめします。



- 2** スプールピンに糸を結んでください。




学習方法の選択

まず次ページの操作で水深画面から学習モードに入り、使用する糸の種類に合った学習方法を選択します。

それぞれの学習方法については次項からの説明をご覧ください。

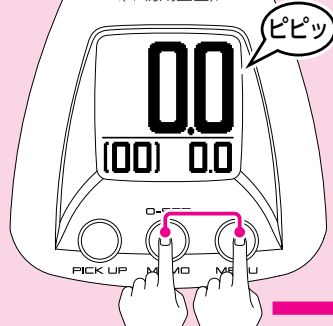
- ※電源をつないでいないとこの操作は行えません。
- ※カウント値が6m以下で操作してください。
6.1m以上の時はいったん0セットしてください。

ご注意：
不足した電圧  で学習されると途中で液晶が消える場合があります。
この場合、学習は始めからやり直してください。

学習モード一覧

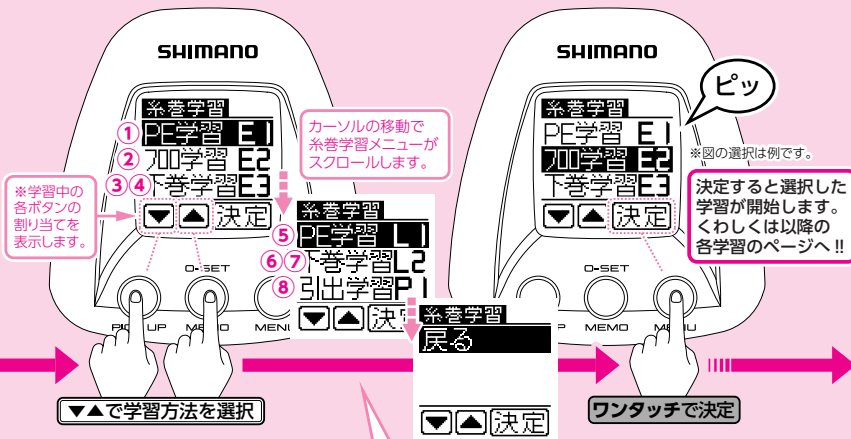
水深画面

電源 ON 時はこの状態です。
(※初期画面)



OSET+MENU ボタン両方
同時 3 秒以上押しで学習モードへ

学習モード

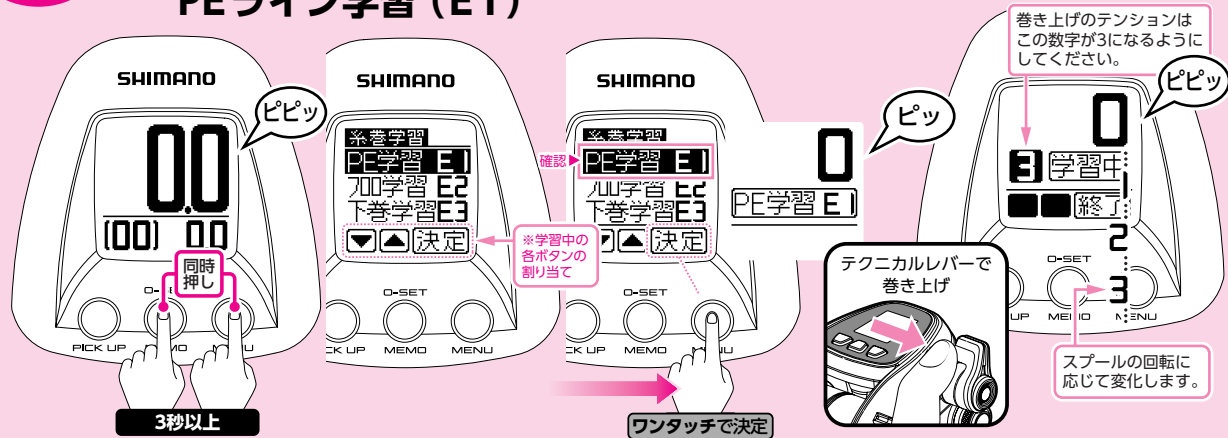


	下巻をしない場合	下巻をする場合	下巻を完了している場合 (ラインを巻き替える場合)	フロロ/ナイロン専用 (下巻をしない場合)	引出学習をする場合
これから巻き取るラインの 距離が正確に分かる場合	① E1 ... P20へ	③ E3 ... P24へ	④ E3 ... P28へ	② E2 ... P22へ	
これから巻き取るラインの 距離が正確に分からない場合	⑤ L1 ... P32へ	⑥ L2 ... P34へ	⑦ L2 ... P38へ		
すでに糸巻きが 完了している場合					⑧ P1 ... P42へ

学習方法 (使用するラインの実測値をリールに記憶させます。)



1 「下巻きをしない」かつ「これから巻き取るラインの長さが正確に分かる場合」 PEライン学習 (E1)



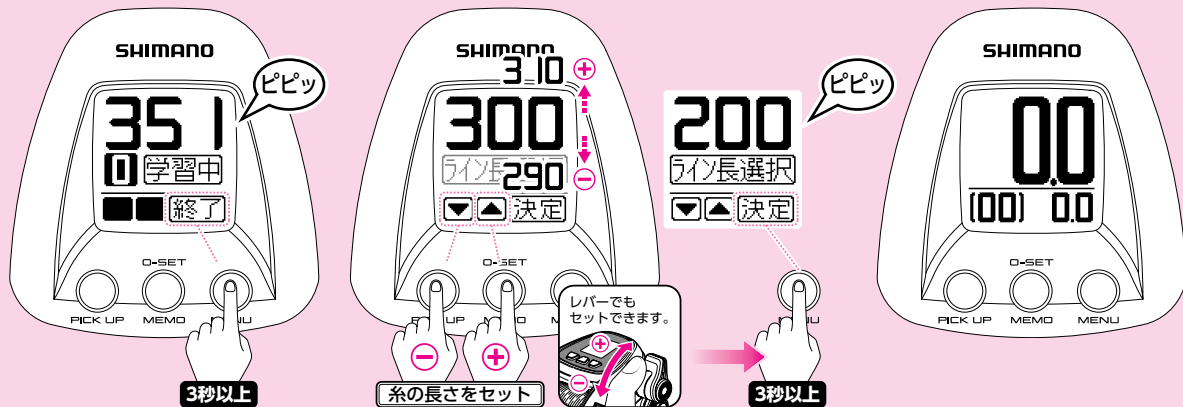
- 1** カウント値が6m以下で操作します。
6.1m以上の時は0セット(P38~39参照)しておきます。
クラッチレバーをONにしてください。
そして、電源の接続を確認してください。
デジタル表示は図のようになります。
(水深画面の状態です。)

O-SET (0セット) ボタン、MENU (メニュー) ボタンを両方同時に3秒以上押しと学習モードに入ります。

- 2** 糸巻学習メニューが表示されます。
※学習中は各ボタンの機能が変更され、画面の下端に割り当てが表示されますのでご参照ください。
「PE学習 E1」が選択されていることを確認し、決定を押します。
表示が図のように変わります。
(学習方法の選択について、詳しくはP18~19をご参照ください。)

- 3** テクニカルレバーで糸を巻いてください。
「ピピッ」のアラームが鳴り、スピールの回転数に比例した数字が表示されます。巻き上げのテンションは3になるようにしてください。この数字はリールが巻き上げている力 (糸のテンション) を数字で表示します。数字=kgではありません。速度はテクニカルレバーで調節できます。巻き上げを止めるときは、テクニカルレバーを「OFF」の位置にしてください。

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ数値を示すわけではありません。



- 4** 糸を完全に巻き終えたら、終了MENU (メニュー) ボタンを3秒以上押してください。「ピピッ」のアラームが鳴ります。

ご注意：糸を全部巻き込まないようにしてください。巻き込みますと、カウンター誤差の原因になります。

- 5** ▼▲ボタン、もしくはレバーで糸の長さをセットし、決定MENU (メニュー) ボタンを3秒以上押してください。「ピピッ」のアラームが鳴ります。

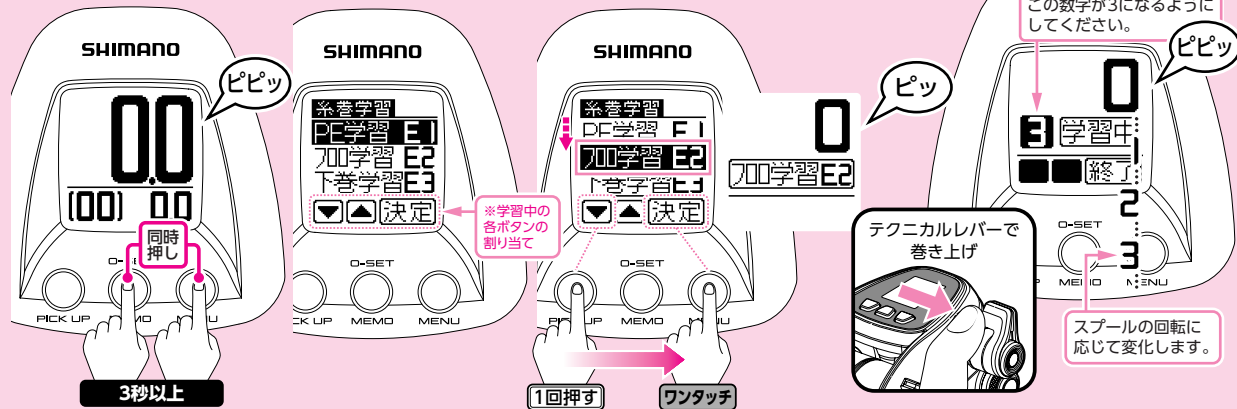
※初期設定は 300m です。(図は 300m から 200m に変更した場合です。)

- 6** 表示が水深画面に戻り、学習は完了です。(カウンターの数値と実際の糸の出た長さとは最大で±3%の誤差が生じる場合があります。)

※誤差とは、学習後1投目の誤差です。
※その後釣りをされていて誤差が大きいのと思われる場合は、P69～71の「糸巻学習補正」を行ってください。より正確な棚取りができます。

学習方法 (使用するラインの実測値をリールに記憶させます。)

2 「下巻きをしない」かつ「これから巻き取るラインの長さが正確に分かる場合」 ナイロン・フロロ学習 (E2)

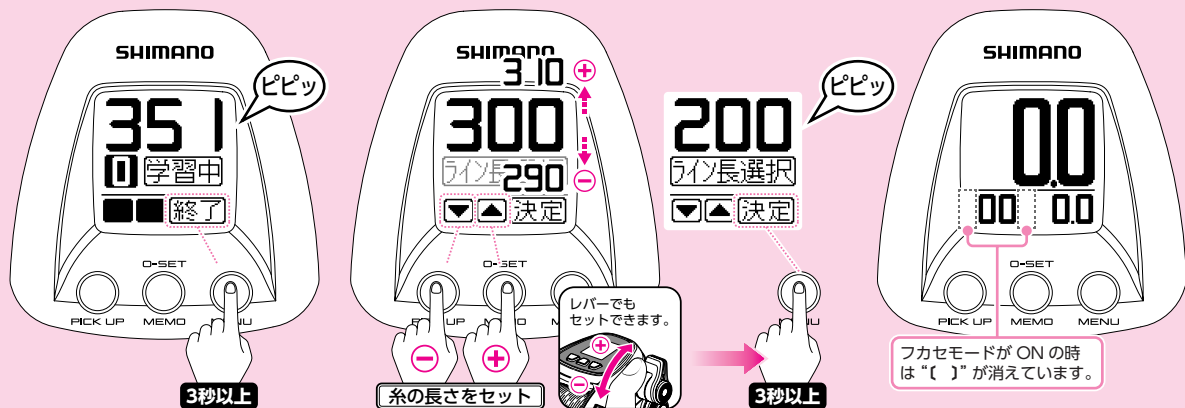


- 1 カウント値が6m以下で操作します。
6.1m以上の時は0セット(P38~39参照)しておきます。
クラッチレバーをONにしてください。
そして、電源の接続を確認してください。
デジタル表示は図のようになります。
(水深画面の状態です。)
O-SET (0セット) ボタン、MENU (メニュー) ボタンを両方向同時に3秒以上押しすと学習モードに入ります。
※デモモードONの時、糸巻学習モードに入ることができません。

- 2 糸巻学習メニューが表示されます。
※学習中は各ボタンの機能が変更され、画面の下段に割り当てが表示されますのでご参照ください。
▼ボタンで「フロロ学習 E2」を選択し、決定を押します。表示が図のようになります。
(学習方法の選択について、詳しくはP18~19をご参照ください。)

- 3 テクニカルレバーで糸を巻いてください。
「ピピッ」のアラームが鳴り、スピールの回転数に比例した数字が表示されます。
巻き上げのテンションは3になるようにしてください。この数字はリールが巻き上げている力(糸のテンション)を数字で表示します。
数字=kgではありません。
速度はテクニカルレバーで調節できます。巻き上げを止めるときは、テクニカルレバーを「OFF」の位置にしてください。

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。



- 4** 糸を完全に巻き終えたら、終了 MENU (メニュー) ボタンを3秒以上押してください。「ピピッ」のアラームが鳴ります。

ご注意：糸を全部巻き込まないようにしてください。巻き込みますと、カウンター誤差の原因になります。

- 5** ▼▲ボタン、もしくはレバーで糸の長さをセットし、決定 MENU (メニュー) ボタンを3秒以上押してください。「ピピッ」のアラームが鳴ります。

※初期設定は300mです。(図は300mから200mに変更した場合です。)

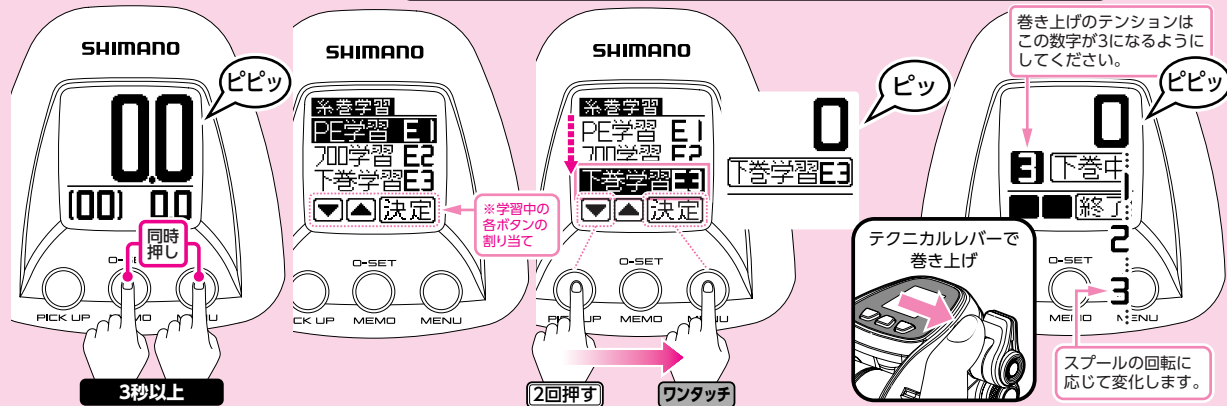
- 6** 表示が水深画面に戻り、学習は完了です。(カウンターの数値と実際の糸の出た長さとは最大で±3%の誤差が生じる場合があります。)
 ※誤差とは、学習後1投目の誤差です。
 ※その後釣りをされていて誤差が大きいのと思われる場合は、P69～71の「糸巻学習補正」を行ってください。より正確な棚取りができます。

糸巻学習 (E2) で完了された場合「[]」が表示されません。フカセモードが ON になります。

3 「下巻きをする」かつ「これから巻き取るラインの長さが正確に分かる場合」 下巻き学習 (E3)

※PEライン 5号 300m：スプールの下巻きラインを使用してください。

※PEライン 6号 200m/4号 300m/4号 200m/5号 200m：付属ゲージを使用してください。



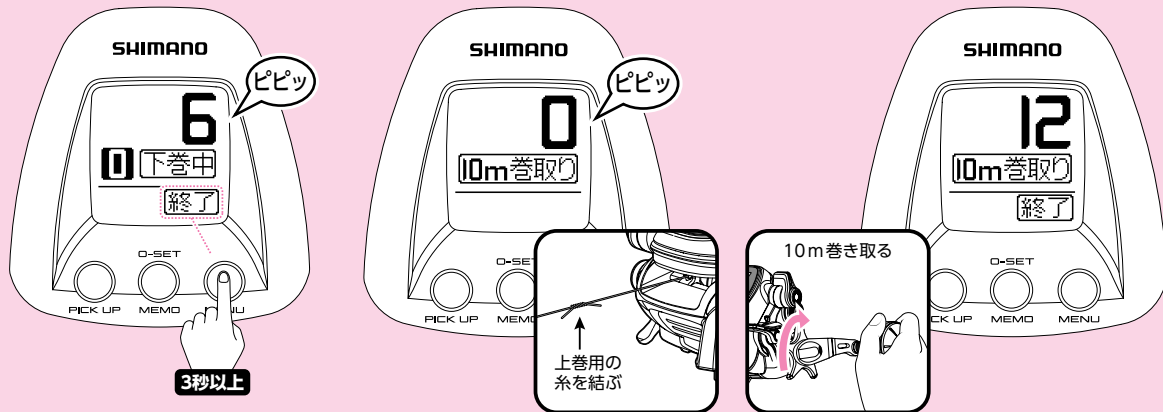
- 1 カウント値が6m以下で操作します。
6.1m以上の時は0セット(P38～39参照)しておきます。
クラッチレバーをONにしてください。
そして、電源の接続を確認してください。
デジタル表示は図のようになります。
(水深画面の状態です。)
O-SET (0セット) ボタン、MENU (メニュー) ボタンを両方同時に3秒以上押しすと学習モードに入ります。

※デモモードONの時、糸巻学習モードに入ることができません。

- 2 糸巻学習メニューが表示されます。
※学習中は各ボタンの機能が変わり、画面の下段に割り当てが表示されますのでご参照ください。
▼ボタンで「下巻き学習 E3」を選択し、決定を押します。
表示が図のようになります。
(学習方法の選択について、詳しくはP18～19をご参照ください。)

- 3 テクニカルレバーで糸を巻いてください。
「ピピッ」のアラームが鳴り、スプールの回転数に比例した数字が表示されます。巻き上げのテンションは3になるようにしてください。この数字はリールが巻き上げている力(糸のテンション)を数字で表示します。数字=kgではありません。速度はテクニカルレバーで調節できます。巻き上げを止めるときは、テクニカルレバーを「OFF」の位置にしてください。

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。



4 下巻き用の糸を巻き終えたら、終了MENU(メニュー) ボタンを3秒以上押してください。

5 「ピピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。
巻き終えた下巻き糸に、上巻き用の糸を結びます。

6 上巻き糸を正確に10m分巻き取ります。
スプールの回転に応じて表示が変化します。

10m巻き取りのご注意

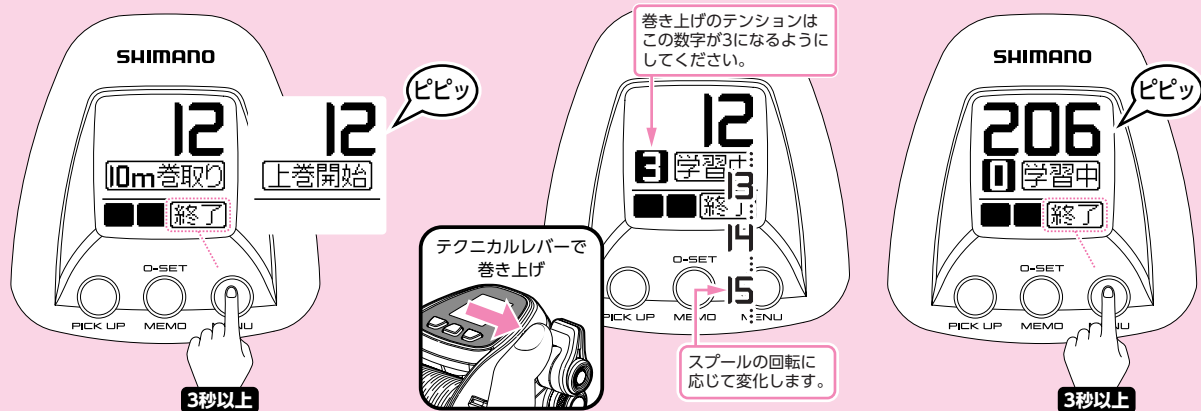
表示中の数字「10」=10mではありません。

■ラインにマーカース表示がある場合は、マーカースを見て10mの計測が必要です。

■ラインにマーカース表示がない場合は、メジャーなどで10mの計測が必要です。

次ページにつづく →

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。

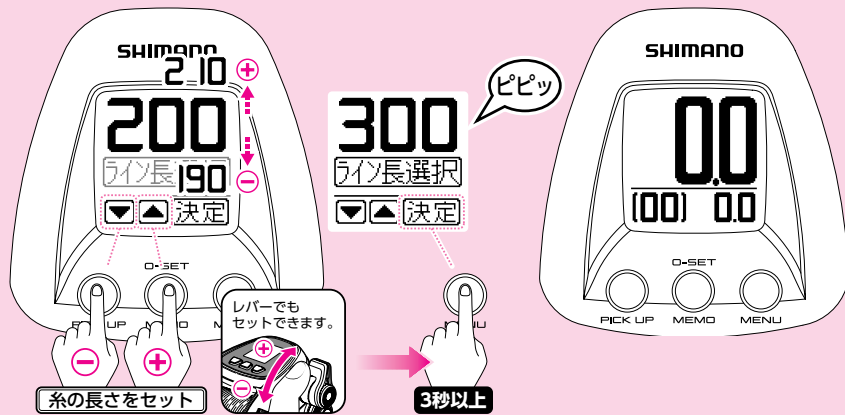


7 終了 MENU (メニュー) ボタンを3秒以上押ししてください。
「ピピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。

8 テクニカルレバーで糸を巻いてください。スプールの回転数に比例した数字が表示されます。巻き上げのテンションは3になるようにしてください。この数字はリールが巻き上げている力(糸のテンション)を数字で表示します。数字=kgではありません。速度はテクニカルレバーで調節できます。巻き上げを止めるときは、テクニカルレバーを「OFF」の位置にしてください。

9 糸を完全に巻き終えたら、終了 MENU (メニュー) ボタンを3秒以上押ししてください。「ピピッ」のアラームが鳴ります。

ご注意：糸を全部巻き込まないようにしてください。巻き込みますと、カウンター誤差の原因になります。



- 10** ▼▲ボタン、もしくはレバーで糸の長さをセットし、決定 MENU(メニュー)ボタンを3秒以上押ししてください。

「ピピッ」のアラームが鳴ります。

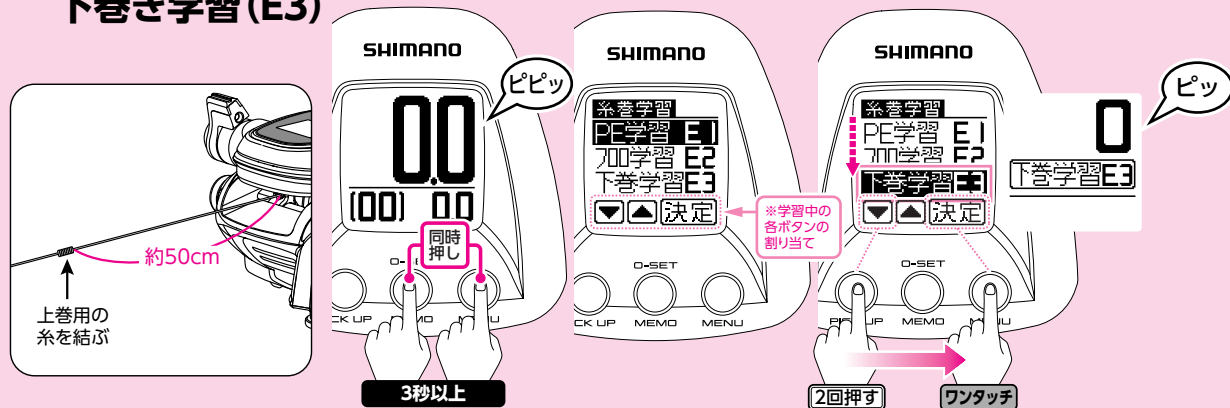
※初期設定は200mです。(図は200mから300mに変更した場合です。)

- 11** 表示が水深画面に戻り、学習は完了です。(カウンターの数値と実際の糸の出た長さとは最大で±3%の誤差が生じる場合があります)

※誤差とは、学習後1投目の誤差です。

※その後釣りをされていて誤差が大きいと思われる場合は、P69～71の「糸巻学習補正」を行ってください。より正確な棚取りができます。

4 「下巻きを完了している場合(ラインを巻き替える場合)」かつ「これから巻き取るラインの長さが正確に分かる場合」 下巻き学習 (E3)



- 1** 巻き終えた下巻き糸に、上巻き用の糸を結びます。
※下巻き糸に上巻き用の糸を結び際、下巻き糸をレベルウィンドの穴に通し、下巻き糸を約50cm糸を引き出して上巻き用の糸を結んでください。

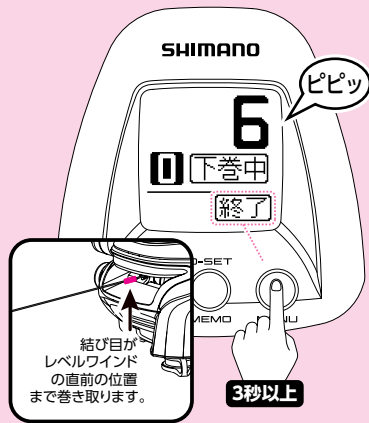
下巻き糸を約 50cm 出した状態で、糸巻学習を始めてください。

- 2** カウント値が6m以下で操作します。
6.1m以上の時は0セット(P51～52参照)しておきます。
クラッチレバーをONにしてください。
そして、電源の接続を確認してください。
デジタル表示は図のようになります。
(水深画面の状態です。)
O-SET (0セット) ボタン、MENU (メニュー) ボタンを両方同時に3秒以上押しと学習モードに入ります。

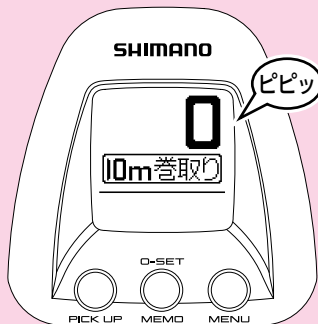
- 3** 糸巻学習メニューが表示されます。
※学習中は各ボタンの機能が変更され、画面の下端に割り当てが表示されますのでご参照ください。
▼ボタンで「下巻学習 E3」を選択し、決定を押します。
表示が図のように変わります。
(学習方法の選択について、詳しくはP18～19をご参照ください。)

※デモモードONの時、糸巻学習モードに入ることができません。

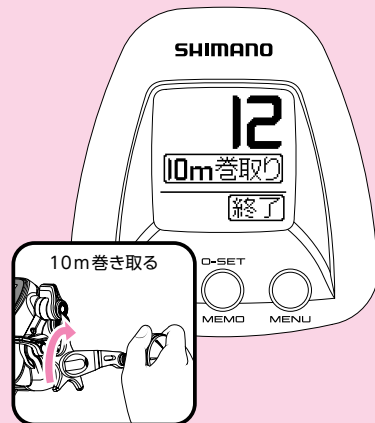
注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。



- 4 上図のようにハンドルで結び目まで巻き取ると、上図の画面になり、MENU (メニュー) ボタンを長押しします。



- 5 「ピピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。



- 6 上巻き糸を正確に10m分巻き取ります。スプールの回転に応じて表示が変化します。

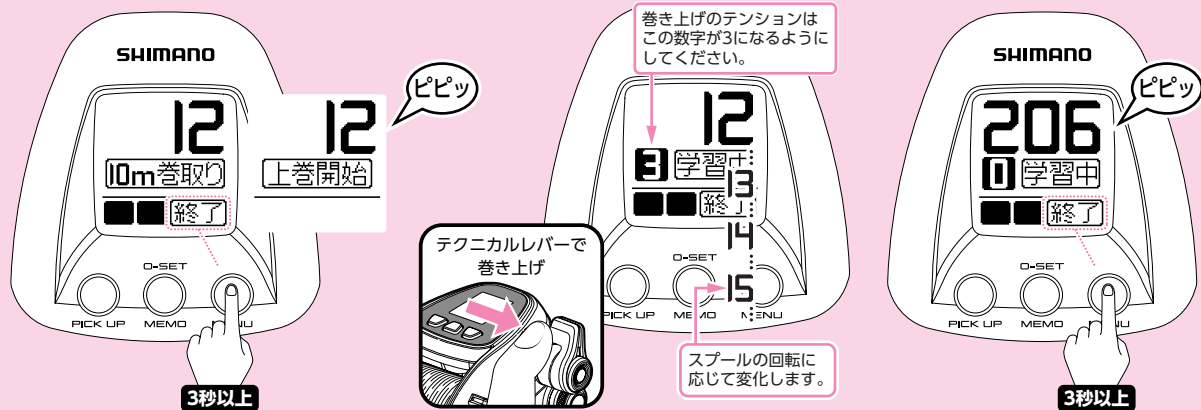
10m巻き取りのご注意

表示中の数字「10」=10mではありません。

- ラインにマーカ表示がある場合は、マーカを見て10mの計測が必要です。
- ラインにマーカ表示がない場合は、メジャーなどで10mの計測が必要です。

次ページにつづく

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。

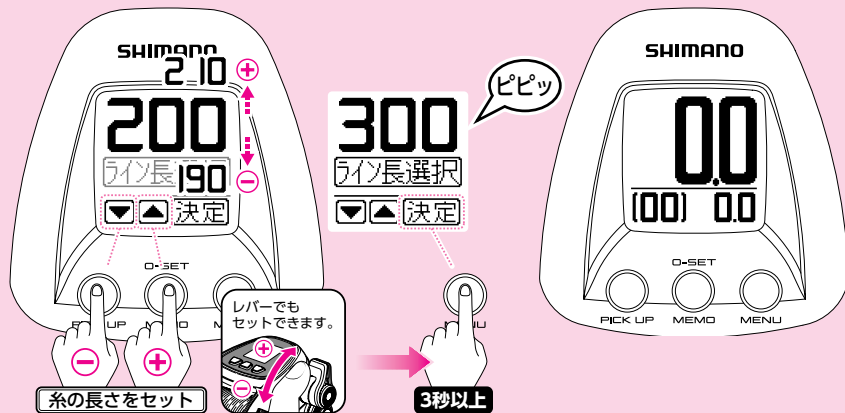


7 終了 MENU (メニュー) ボタンを3秒以上押ししてください。
「ピピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。

8 テクニカルレバーで糸を巻いてください。スピールの回転数に比例した数字が表示されます。巻き上げのテンションは3になるようにしてください。この数字はリールが巻き上げている力 (糸のテンション) を数字で表示します。数字 = kg ではありません。速度はテクニカルレバーで調節できます。巻き上げを止めるときは、テクニカルレバーを「OFF」の位置にしてください。

9 糸を完全に巻き終えたら、終了 MENU (メニュー) ボタンを3秒以上押ししてください。「ピピッ」のアラームが鳴ります。

ご注意：糸を全部巻き込まないようにしてください。巻き込みますと、カウンター誤差の原因になります。



- 10** ▼▲ボタン、もしくはレバーで糸の長さをセットし、決定 MENU(メニュー)ボタンを3秒以上押ししてください。

「ピピッ」のアラームが鳴ります。

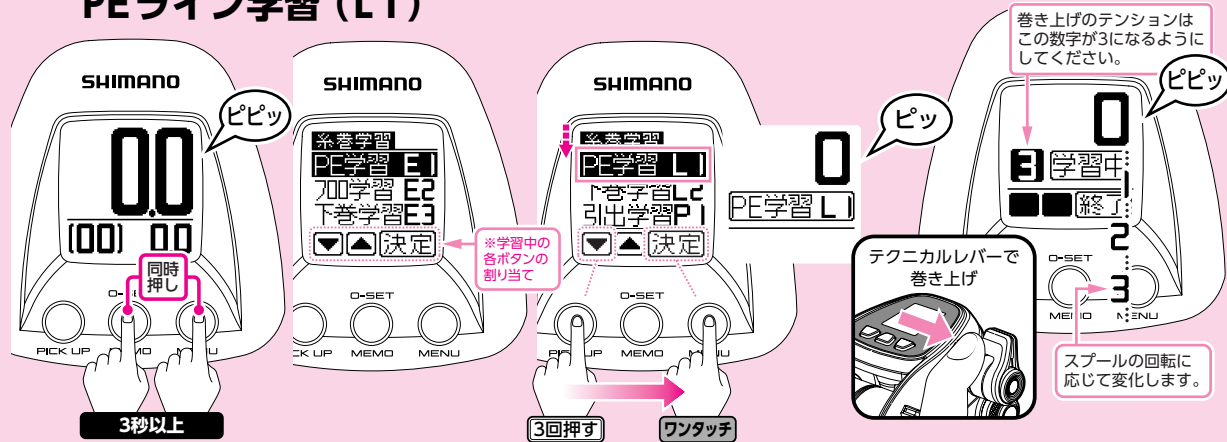
※初期設定は200mです。(図は200mから300mに変更した場合です。)

- 11** 表示が水深画面に戻り、学習は完了です。(カウンターの数値と実際の糸の出た長さとは最大で±3%の誤差が生じる場合があります)

※誤差とは、学習後1投目の誤差です。

※その後釣りをされていて誤差が大きいと思われる場合は、P69～71の「糸巻学習補正」を行ってください。より正確な棚取りができます。

5 「下巻きをしない」かつ「これから巻き取るラインの長さが正確に分からない場合」 PEライン学習 (L1)



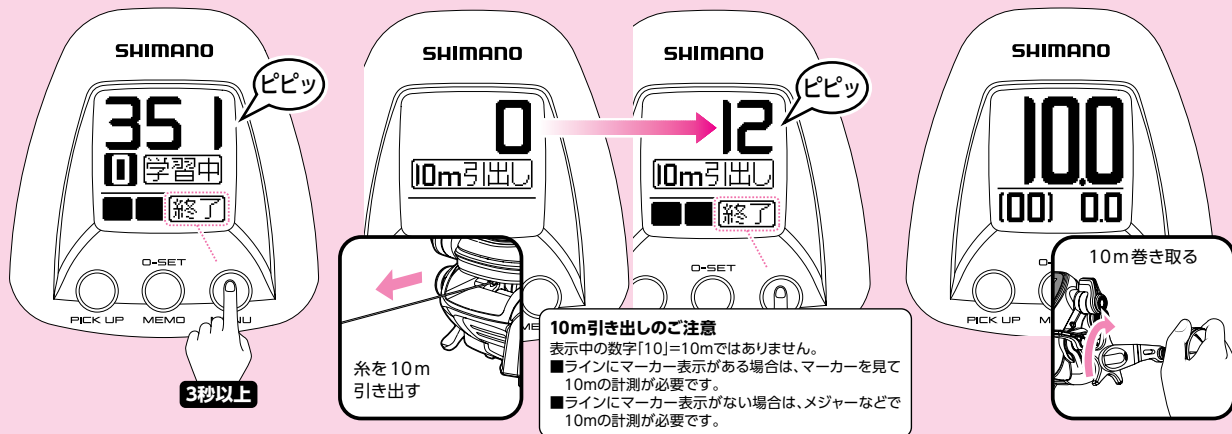
- 1** カウント値が6m以下で操作します。
6.1m以上の時は0セット(P38～39参照)しておきます。
クラッチレバーをONにしてください。
そして、電源の接続を確認してください。
デジタル表示は図のようになります。
(水深画面の状態です。)
O-SET (0セット) ボタン、MENU (メニュー) ボタンを両方同時に3秒以上押しすと学習モードに入ります。

※デモモードONの時糸巻学習モードに入ることができません。

- 2** 糸巻学習メニューが表示されます。
※学習中は各ボタンの機能が変更され、画面の下段に割り当てが表示されますのでご参照ください。
▼ボタンで「PE学習 L1」を選択し、決定を押します。
表示が図のようになります。
(学習方法の選択について、詳しくはP18～19をご参照ください。)

- 3** テクニカルレバーで糸を巻いてください。
「ピピッ」のアラームが鳴り、スプールの回転数に比例した数字が表示されます。巻き上げのテンションは3になるようにしてください。この数字はリールが巻き上げている力(糸のテンション)を数字で表示します。数字=kgではありません。速度はテクニカルレバーで調節できます。巻き上げを止めるときは、テクニカルレバーを「OFF」の位置にしてください。

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。



- 4** 糸を完全に巻き終わったら、終了 MENU(メニュー) ボタンを3秒以上押してください。「ピピッ」のアラームが鳴ります。

ご注意：糸を全部巻き込まないようにしてください。巻き込みますと、カウンター誤差の原因になります。

- 5** 糸を正確に10m分引き出します。(糸の10mごとの色の変化、もしくは1mごとのマーカーストで確認します。) 学習を終了するため、終了 MENU(メニュー) ボタンを3秒以上押してください。「ピピッ」のアラームが鳴ります。

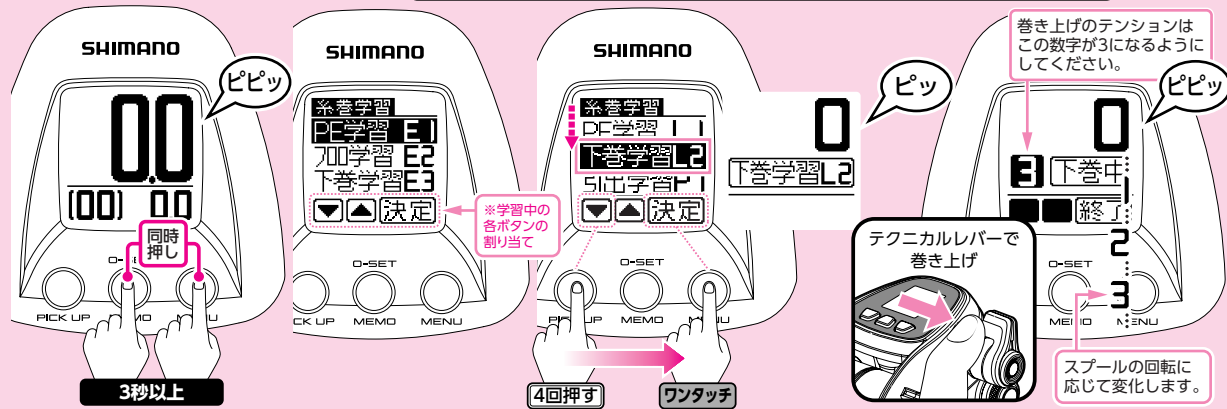
- 6** 表示が水深画面に戻り、学習は完了です。(カウンターの数値と実際の糸の出た長さとは最大で±3%の誤差が生じる場合があります。) ※誤差とは、学習後1投目の誤差です。 ※その後釣りをされていて誤差が大きいと思われる場合は、P69～71の「糸巻学習補正」を行ってください。より正確な棚取りができます。

- 7** 引き出した10m分の糸を巻き取ってください。

6 「下巻きをする」かつ「これから巻き取るラインの長さが正確に分からない場合」 下巻き学習 (L2)

※PEライン 5号 300m：スプールの下巻きラインを使用してください。

※PEライン 6号 200m/4号 300m/4号 200m/5号 200m：付属ゲージを使用してください。

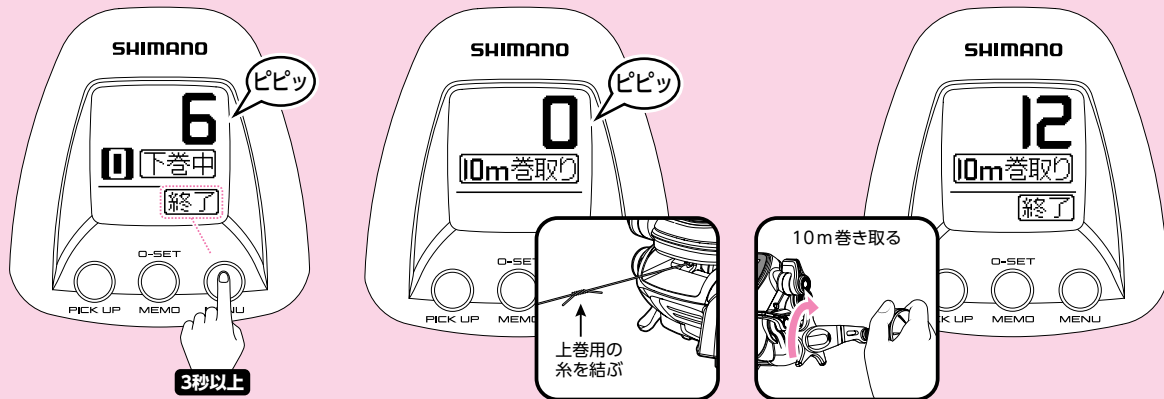


- 1** カウント値が6m以下で操作します。
6.1m以上の時は0セット(P38～39参照)しておきます。
クラッチレバーをONにしてください。
そして、電源の接続を確認してください。
デジタル表示は図のようになります。
(水深画面の状態です。)
O-SET (0セット) ボタン、MENU (メニュー) ボタンを両方同時に3秒以上押すと学習モードに入ります。
※デモモードONの時、糸巻学習モードに入ることができません。

- 2** 糸巻学習メニューが表示されます。
※学習中は各ボタンの機能が変更され、画面の下段に割り当てが表示されますのでご参照ください。
▼ボタンで「下巻き学習 L2」を選択し、決定を押します。
表示が図のように変わります。
(学習方法の選択について、詳しくはP18～19をご参照ください。)

- 3** テクニカルレバーで糸を巻いてください。
「ピピッ」のアラームが鳴り、スプールの回転数に比例した数字が表示されます。巻き上げのテンションは3になるようにしてください。この数字はリールが巻き上げている力(糸のテンション)を数字で表示します。数字=kgではありません。速度はテクニカルレバーで調節できません。巻き上げを止めるときは、テクニカルレバーを「OFF」の位置にしてください。

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。



4 下巻き用の糸を巻き終えたら、終了 MENU(メニュー) ボタンを3秒以上押してください。

5 「ピピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。巻き終えた下巻き糸に、上巻き用の糸を結びます。

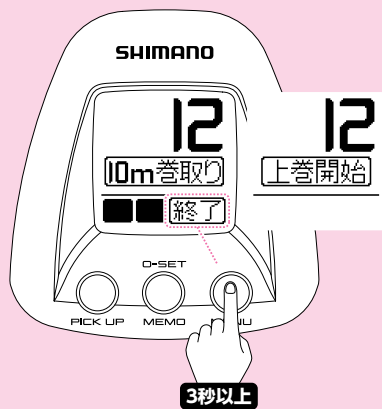
6 上巻き糸を正確に10m分巻き取ります。スプールの回転に応じて数値が変化します。

10m巻き取りのご注意

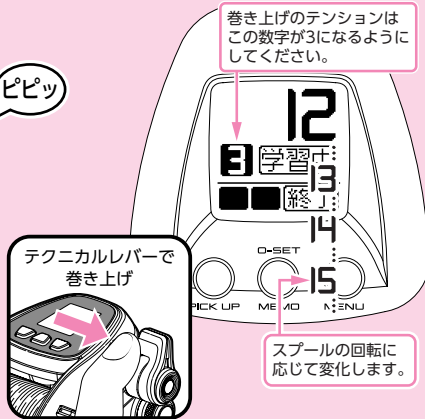
表示中の数字「10」=10mではありません。

- ラインにマーカ表示がある場合は、マーカを見て10mの計測が必要です。
- ラインにマーカ表示がない場合は、メジャーなどで10mの計測が必要です。

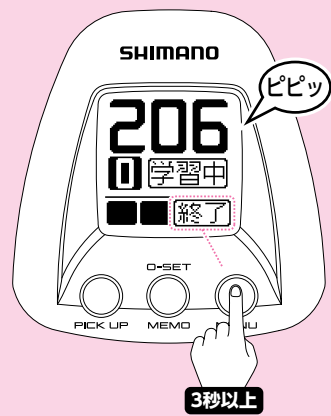
次ページにつづく →



- 7** 終了 MENU(メニュー) ボタンを3秒以上押し
てください。
「ピピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。



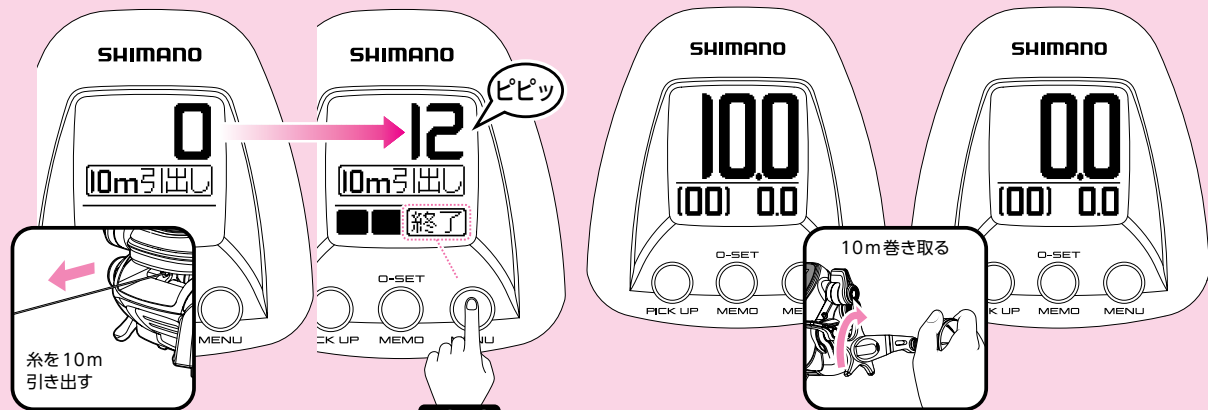
- 8** テクニカルレバーで糸を巻いてください。
スプールの回転数に比例した数字が表示されま
す。巻き上げのテンションは3になるようにし
てください。この数字はリールが巻き上げている
力(糸のテンション)を数字で表示します。数字
=kgではありません。
速度はテクニカルレバーで調節できます。
巻き上げを止めるときは、テクニカルレバーを
「OFF」の位置にしてください。



- 9** 糸を完全に巻き終えたら、終了 MENU(メ
ニュー) ボタンを3秒以上押ししてください。
「ピピッ」のアラームが鳴ります。

ご注意：糸を全部巻き込まないようにし
てください。巻き込みますと、カウンター誤
差の原因になります。

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。



- 10** 糸を正確に10m分引き出します。(糸の10mごとの色の变化、もしくは1mごとのマーカの数で確認します。)
学習を終了するため、終了 MENU(メニュー) ボタンを3秒以上押してください。
「ピピッ」のアラームが鳴ります。

10m巻き取りのご注意

表示中の数字「10」=10mではありません。

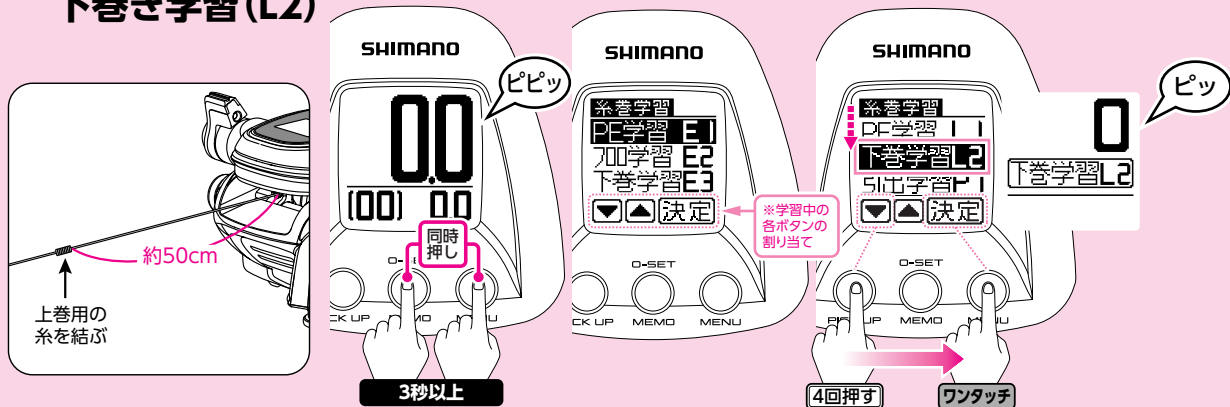
- ラインにマーカ表示がある場合は、マーカを見て10mの計測が必要です。
- ラインにマーカ表示がない場合は、メジャーなどで10mの計測が必要です。

3秒以上

- 11** 表示が水深画面に戻り、学習は完了です。
(カウンターの数値と実際の糸の出た長さとは最大で±3%の誤差が生じる場合があります)
※誤差とは、学習後1投目の誤差です。
※その後釣りをされていて誤差が大きいと思われる場合は、P69～71の「糸巻学習補正」を行ってください。より正確な棚取りができます。

- 12** 引き出した10m分の糸を巻き取ってください。

7 「下巻きを完了している場合(ラインを巻き替える場合)」かつ「これから巻き取るラインの長さが正確に分からない場合」 下巻き学習(L2)



- 1** 巻き終えた下巻き糸に、上巻き用の糸を結びます。
※下巻き糸に上巻き用の糸を結び際、下巻き糸をレベルウィンドの穴に通し、下巻き糸を約50cm糸を引き出して上巻き用の糸を結んでください。

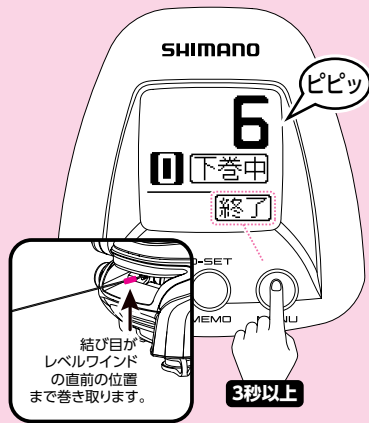
下巻き糸を約50cm出した状態で、糸巻学習を始めてください。

- 2** カウント値が6m以下で操作します。6.1m以上の時は0セット(P51～52参照)しておきます。クラッチレバーをONにしてください。そして、電源の接続を確認してください。デジタル表示は図のようになります。(水深画面の状態です。)
O-SET (0セット) ボタン、MENU (メニュー) ボタンを両方同時に3秒以上押しと学習モードに入ります。

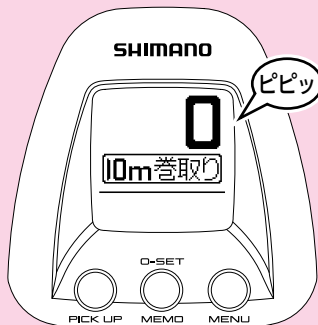
- 3** 糸巻学習メニューが表示されます。
※学習中は各ボタンの機能が変わられ、画面の下段に割り当てが表示されますのでご参照ください。
▼ボタンで「下巻学習 L2」を選択し、決定を押します。
表示が図のようになります。(学習方法の選択について、詳しくはP18～19をご参照ください。)

※デモモードONの時、糸巻学習モードに入ることができません。

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。



- 4 上図のようにハンドルで結び目まで巻き取ると、上図の画面になり、MENU(メニュー)ボタンを長押しします。



- 5 「ピピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。



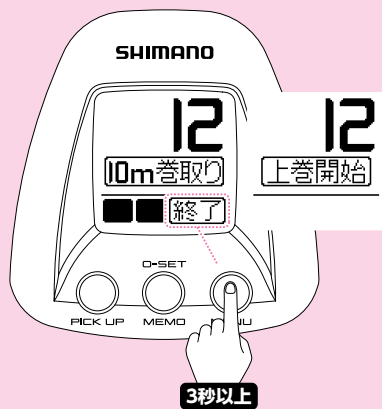
- 6 上巻き糸を正確に10m分巻き取ります。スプールの回転に応じて数値が変化します。

10m巻き取りのご注意

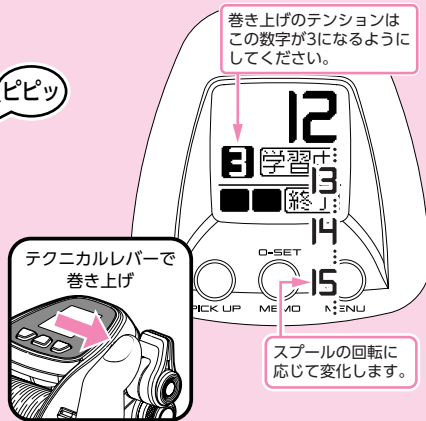
表示中の数字「10」=10mではありません。

- ラインにマーカ表示がある場合は、マーカを見て10mの計測が必要です。
- ラインにマーカ表示がない場合は、メジャーなどで10mの計測が必要です。

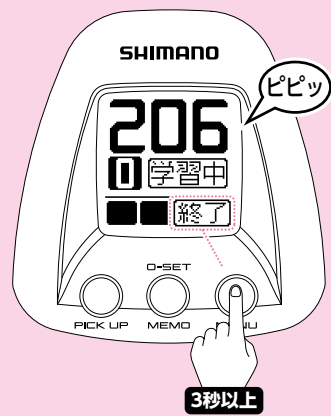
次ページにつづく →



- 7** 終了MENU(メニュー)ボタンを3秒以上押し
てください。
「ピピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。

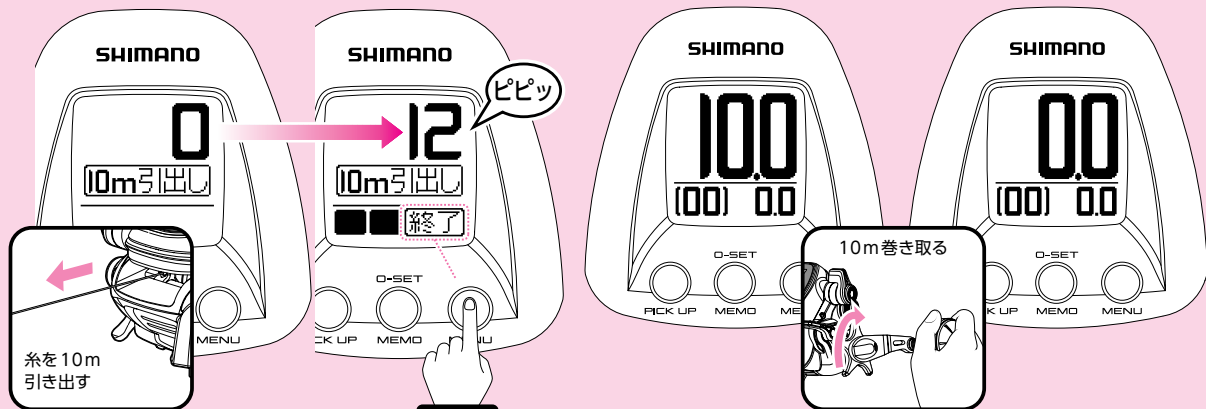


- 8** テクニカルレバーで糸を巻いてください。
スプールの回転数に比例した数字が表示されま
す。巻き上げのテンションは3になるようにし
てください。この数字はリールが巻き上げている
力(糸のテンション)を数字で表示します。数字
=kgではありません。
速度はテクニカルレバーで調節できます。
巻き上げを止めるときは、テクニカルレバーを
「OFF」の位置にしてください。



- 9** 糸を完全に巻き終えたら、終了MENU(メ
ニュー)ボタンを3秒以上押ししてください。
「ピピッ」のアラームが鳴ります。

ご注意：糸を全部巻き込まないようにし
てください。巻き込みますと、カウンター誤
差の原因になります。



- 10** 糸を正確に10m分引き出します。(糸の10mごとの色の变化、もしくは1mごとのマーカの数で確認します。)
学習を終了するため、終了 MENU(メニュー) ボタンを3秒以上押してください。
「ピピッ」のアラームが鳴ります。

10m巻き取りのご注意

表示中の数字「10」=10mではありません。

- ラインにマーカ表示がある場合は、マーカを見て10mの計測が必要です。
- ラインにマーカ表示がない場合は、メジャーなどで10mの計測が必要です。

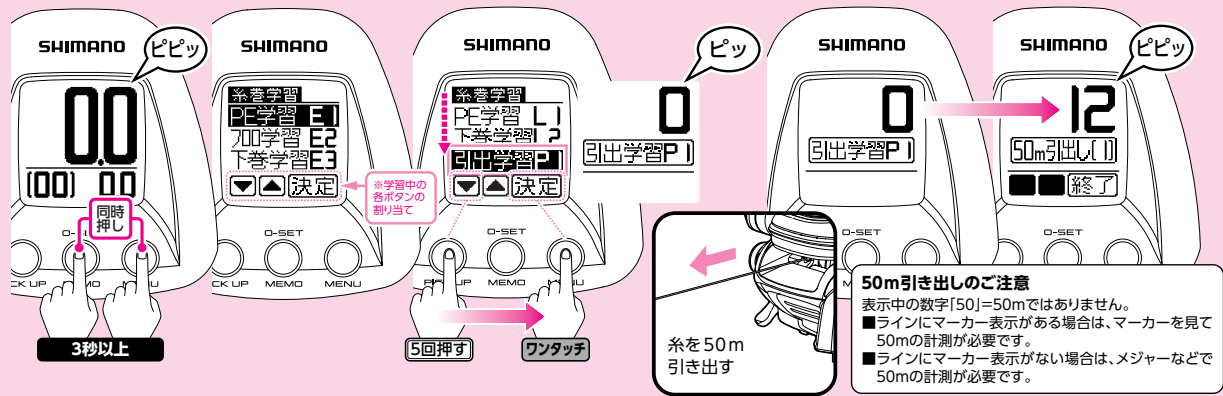
3秒以上

- 11** 表示が水深画面に戻り、学習は完了です。
(カウンターの数値と実際の糸の出た長さとは最大で±3%の誤差が生じる場合があります。)
※誤差とは、学習後1投目の誤差です。
※その後釣りをされていて誤差が大きいと思われる場合は、P69～71の「糸巻学習補正」を行ってください。より正確な棚取りができます。

- 12** 引き出した10m分の糸を巻き取ってください。

8 「引出学習をする場合」かつ「すでに糸巻きが完了している場合」 引き出し学習(P1)

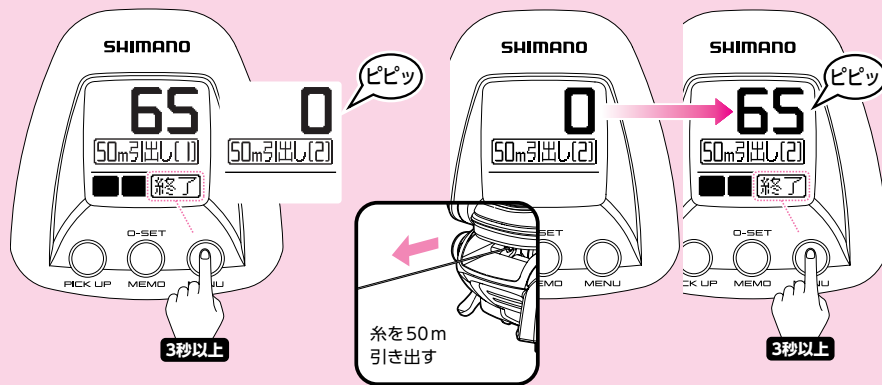
糸を巻き終わった状態から引き出して再入力する時に便利な方法です。
ご注意：引き出し学習を行う場合、巻いている糸が100m以上必要です。



- 1** カウント値が6m以下で操作します。
6.1m以上の時は0セット(P38～39参照)しておきます。
電源の接続を確認してください。
デジタル表示は図のようになります。
(水深画面の状態です。)
O-SET(0セット)ボタン、MENU(メニュー)ボタンを両方同時に3秒以上押すと学習モードに入ります。
※デモモードONの時、糸巻学習モードに入ることができません。

- 2** 糸巻学習メニューが表示されます。
※学習中は各ボタンの機能が変更され、画面の下段に割り当てが表示されますのでご参照ください。
▼ボタンで「引出学習P1」を選択し、決定を押します。
表示が図のようになります。
(学習方法の選択について、詳しくはP18～19をご参照ください。)

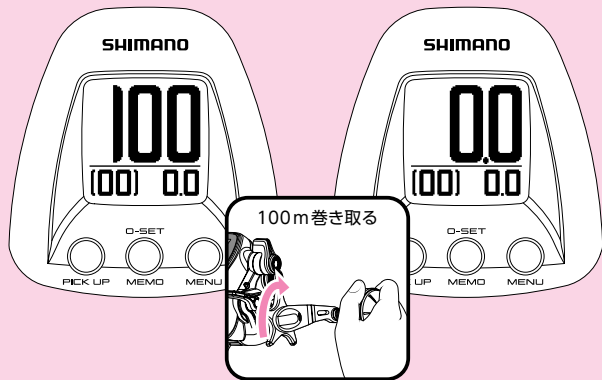
- 3** クラッチレバーをOFFにして、糸を正確に50m分引き出します。
(糸の10mごとの色の変化、もしくは1mごとのマーカースの数で確認します。)



4 50m分の引き出しが完了しましたら、終了 MENU(メニュー) ボタンを3秒以上押してください。
「ピピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。

5 さらに糸を正確に50m引き出します。
(糸の10mごとの色の変化、もしくは1mごとのマーカーの数で確認します。)
50m分引き出し完了後、終了 MENU(メニュー) ボタンを3秒以上押してください。
「ピピッ」のアラームが鳴ります。

次ページにつづく →



- 6** 表示が水深画面に戻り、学習は完了です。
7 引き出した100m分の糸を巻き取ってください。

(カウンターの数値と実際の糸の出た長さとは最大で±3%の誤差が生じる場合があります。)

※誤差とは、学習後1投目の誤差です。

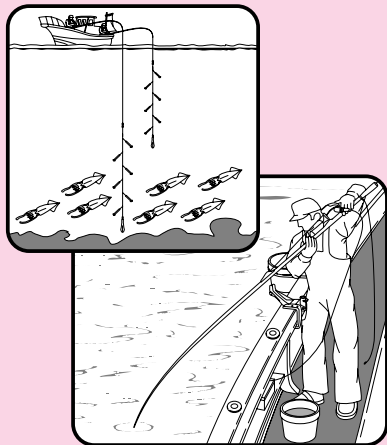
※その後釣りをされていて誤差が大きいと思われる場合は、P69～71の「糸巻学習補正」を行ってください。より正確な棚取りができます。

色々なテクニック (ここではテクニックの応用を紹介。釣果にダンゼン差をつけるなら必読!)



応用 シカケを速く落とすテクニック。

- 一般的にはメカニカルブレーキノブを締めて、スプールのフリー回転を少し重くし、船の上下動による糸のバックラッシュを防ぎます。
- しかし、より速くシカケを落とすためにはメカニカルブレーキノブを締めずに、自分の指でスプールをサミングしてください。



- 竿先を下に向け、竿全体を立てることでガイドの抵抗を少なくすることができます。(上図)

この他にも次のようなテクニックがあります。



- 本製品には、自動糸送りの機能が付いています。シカケを投入して水深が船べり停止位置+5m以上になったら、自動的にモーターがONになり、スプールの抵抗を極力少なくします。クラッチをリターンさせると、モーターの回転は自動的にストップします。

※自動糸送りが作動中はモーターが回転していますので、そのままクラッチをONにすると若干糸を巻き込みますが異常ではありません。

※本製品はスプール回転をよりスムーズにしているため、自動糸送り機能をONにしても、その効果を体感していただけない場合があります。

- クラッチを切り、テクニカルレバーをONにし、モーターを回転させると強制的に糸送り状態となり、よりシカケ落下を速めることができます。

ご注意:

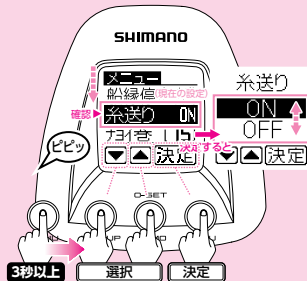
上記のような強制糸送りを行った際、モーターをOFFにせず、クラッチをONにすると糸を巻き込んでしまいます。必ずモーターをOFF(テクニカルレバーをOFF)にしてからクラッチをONにしてください。

自動糸送り機能のON/OFF

電源を入れた際は自動糸送り機能がONになっています。バックラッシュなどでこれをOFFしたい時は下記の操作で切り替えてください。

1. 水深画面で MENU(メニュー) ボタンを3秒以上押すとメニュー画面が表示されます。
2. 「糸送り」が選択されていることを確認します。選択されていない時は ▼▲ボタンで選択します。機能名の右は現在の設定を表します。(図の設定は例です。) 決定 MENU(メニュー) ボタンを押すと「糸送り」のメニューが表示されます。
3. ▼▲ボタンで「ON」または「OFF」を選択し、決定 MENU(メニュー) ボタンを押してください。

メニュー画面の操作について、詳しくはP11~14をご参照ください。



0(ゼロ)セットの設定 (釣りを始める前に必ず行なってください。)



正確な棚取りを実現するために。

釣果アップには、正確な棚取りが不可欠です。そこで「0セット」を設定します。「0セット」とは、シカケが水面にある時を0mとして設定することです。「0セット」によって、シカケの位置が水深を示すようになり、正確な棚取りを可能にします。

※糸を巻き込み過ぎた状態での0セットは、糸巻学習が不正確になる原因となりますのでおやめください。

※水深表示が10.1m以上で0セットをすると、高切れ補正となります。

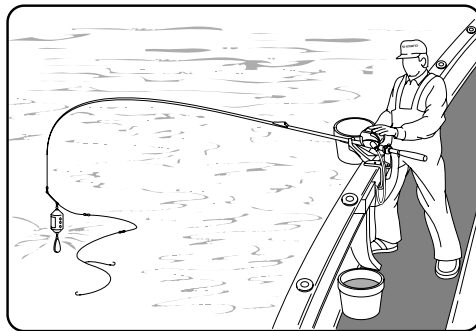
⚠️ ご注意！ — 仕掛けを竿の穂先に巻き込むことを防止するために —

大物などを強いテンションで巻き上げた直後は0セットを実施しないようにしてください。

大物を掛けた時などに糸が伸びたりつぶれたりすることで、スプールに巻かれた糸の外径に変化が生じ船べり停止位置がずれることがあります。

その時に、0セットを行うと次の投入で前回の巻き上げ時のテンションとの差が大きくなることでカウンター表示がずれ、仕掛けを竿の穂先に巻き込み穂先を破損する可能性があります。

電動リールの特性上、この現象を完全に防ぐことはできませんので0セットを実施する際はご注意ください。



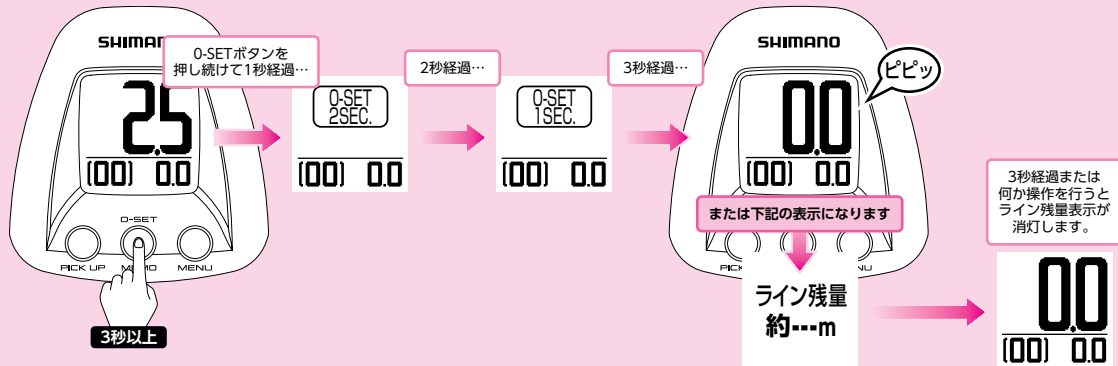
シカケが水面にある時を0mとして設定します。

0セットを試してみましょう。



ご注意!

糸を巻き込み過ぎた状態での0セットは、糸巻学習が不正確になる原因となりますのでおやめください。



1 シカケを水面に合わせ、O-SET(0セット)ボタンを3秒以上押し続けてください。

2 「ビピッ」のアラームが鳴り、上図のように表示が変わります。これで0セットは完了です。

ライン残量が表示される条件

糸巻学習後から補正された時にライン残量が表示されます。

※糸巻学習前は、「---」と表示することがあります。

※ライン残量を確認されたい場合は、リールデータより確認できます。(P.26参照)

ライン残量表示のご注意

水深表示±10未満で0セットをされた場合は、糸巻学習は補正されないためライン残量は更新されません。

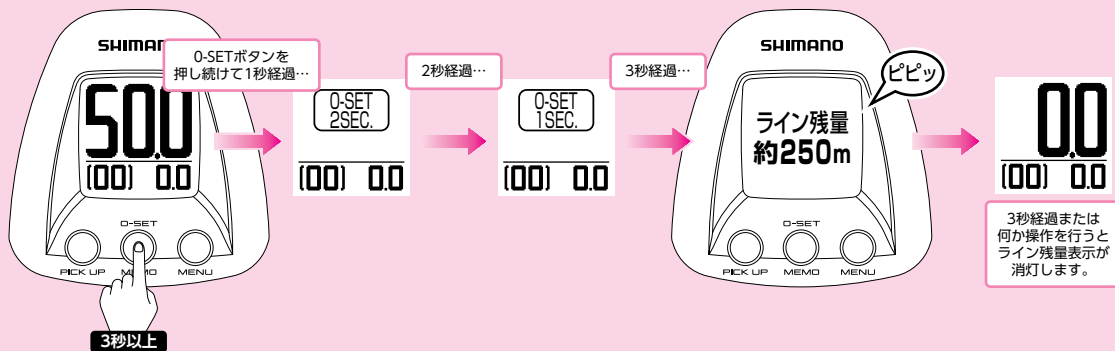
高切れの補正



高切れした場合も、簡単操作で補正が可能です。

※水深表示が 10.1m 以上で 0 セットをすると、高切れ補正となります。

⚠ 高切れをした場合、道糸を巻き込んでしまってから高切れ補正を行うと、糸巻学習が不正確になります。道糸の巻き込みには十分ご注意ください。



1 シカケを水面に合わせ、O-SET (0セット) ボタンを3秒以上押し続けてください。

2 上図のように表示が変わります。これで、コンピュータが自動的に高切れした位置からの実測値表示にプログラムを変更します。

ライン残量が表示される条件

糸巻学習後から補正された時にライン残量が表示されます。

※ライン残量を確認されたい場合は、リールデータより確認できます。(P26参照)

ライン残量表示のご注意

水深表示±10未満で0セットをされた場合は、糸巻学習は補正されないためライン残量は更新されません。



シールドタイプ S A-RB でさらなるスプールフリーを実現！

従来のA-RB（アンチラストベアリング）の側面に防錆素材でシーリングし、塩分の浸入を減少させたシールドタイプ S A-RB を適材適所に配置したことにより、シカケ落下時のスプールフリーが更に軽くなりました。

それによってイカ釣りでのシカケ落下性能も飛躍的にUP、また電動リールでは困難と言われた完全フカセも攻略。また、レベルウィンド部分での糸ガラムミを完全にシャットアウトする、セーフティーバーとレベルウィンドのベストバランスを実現させました。

A-RB処理によるベアリングの防錆性はもちろん、ベアリング内部に浸入した塩分の結晶化による“塩噛み”をも減少させ、ソルトウォーターでの使用をさらに快適なものにしています。

S A-RB

船べり自動停止



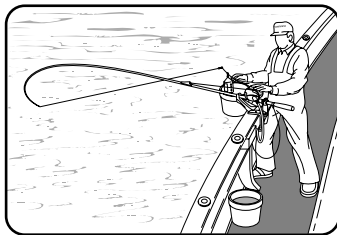
船べり自動停止位置を「自動設定」と「任意設定」の選択が可能です。

■「自動設定」の場合

電動巻き上げ停止後、竿を立てればシカケが手元にもどります。

船べり停止後、竿を立てたときにシカケが手元にくるように自動的に設定されます。

- ※電源を入れた初回投入時のみ6mで船べり停止します。
- 2回目以降は5秒以上止めていた位置を次回の船べり停止位置として、コンピュータが自動的に記憶します。
- (この機能は1m～6mの範囲で作動します。水深表示が1.0m未満の時は、安全のため1mの設定になります。)



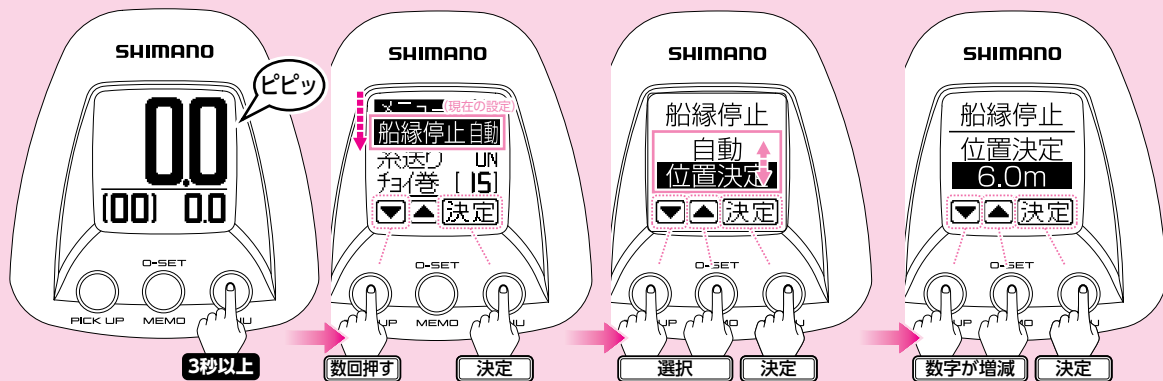
■「任意設定」の場合

1m～6mの範囲内で船べり停止位置を任意に選ぶことができます。(10cm単位)

※安全のため船べり停止位置は1m未満には設定できないようになっています。

※フカセモードON時は船べり停止位置の設定ができません。詳しくは、P70をご参照ください。

船べり自動停止位置の「自動設定」と「任意設定」の切替えについて…



- 1** 出荷時は船べり自動停止位置は自動設定で起動します。
水深画面でMENU(メニュー)ボタンを3秒以上押すとメニュー画面が表示されます。

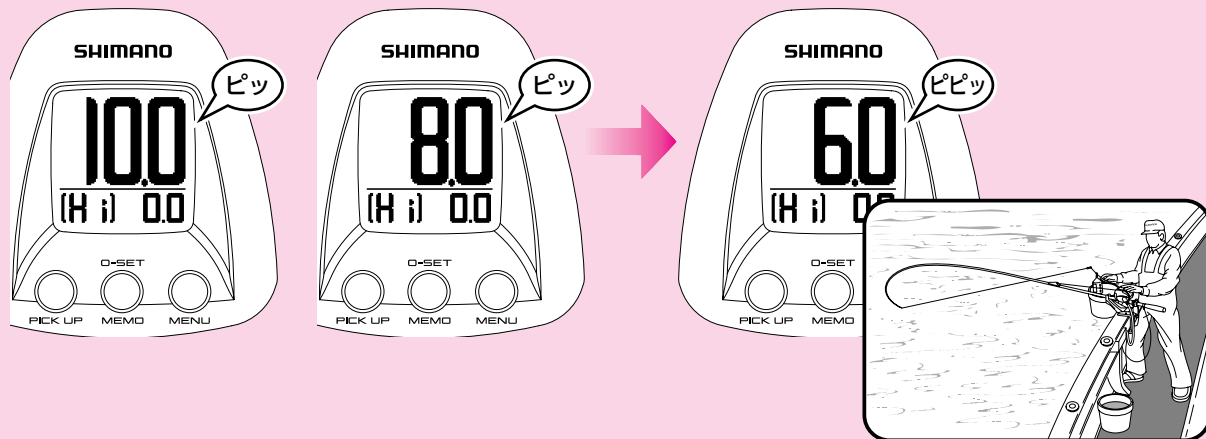
注意：液晶画面内の設定・数値は例として表示しています。実際と同じ設定・数値を示すわけではありません。

- 2** ▼ボタンを数回押して「船縁停止」を選択します。
機能名の右は現在の設定を表します。(図の設定は例です。)
決定MENU(メニュー)ボタンを押すと「船縁停止」のメニューが表示されます。
▼▲ボタンで「位置設定」を選択し決定MENU(メニュー)ボタンを押すと船べり自動停止位置の任意設定画面になります。(メニュー画面の操作について、詳しくはP11～14をご参照ください。)

- 3** 数値を▼▲ボタンで増減してお好みの停止位置に設定し、決定MENU(メニュー)ボタンを押してください。
※1m～6mの範囲で設定できます。(10cm単位)

アラーム (船ベリ)

船ベリ自動停止位置の4m手前からアラームでお知らせします。



- 1** セットされている船ベリ自動停止位置の4m手前から、2mごとにアラームでお知らせします。

図はテクニカルレバーのHiで巻き上げた場合の表示です。

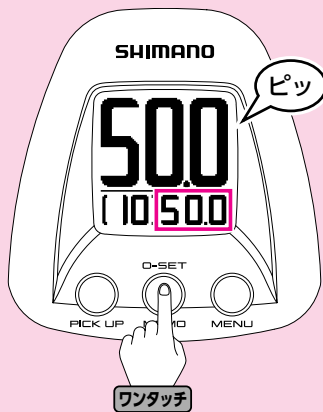
- 2** 船ベリ自動停止位置(この場合は6.0m)で「ピピッ」のアラームが鳴り、自動的に巻き上げを停止します。

船ベリ停止後、竿を立てるだけで手元にシカケがくるので、すばやく上図のようにとりこむことができます。

棚または底の水深をメモリーする方法



水深をメモリーするには…

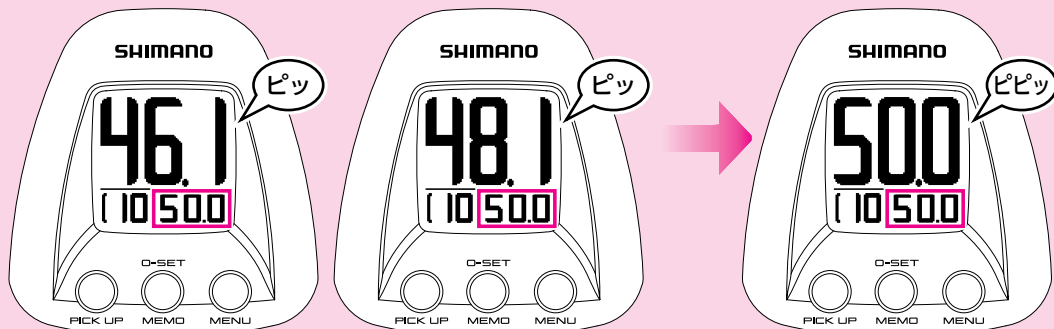


シカケをメモリーしたい水深に合わせ、MEMOボタンを押します。
メモリーした水深がメモ欄に表示されます。(□部分)
上図の場合ですと50.0mの水深がメモリーされます。(上からモード選択時)

※このセットは何回でも入れ換えが可能です。

棚アラーム

メモリーした水深の4m手前から「棚アラーム」でお知らせします。



1 シカケをおろす方向のみ、セットされているメモ水深の4m手前から、2mごとにアラームでお知らせします。

2 メモ水深(この場合は50.0m)で「ピピッ」のアラームが鳴ります。1回の上げ下ろしにつきアラームは1回のみです。いったん6.0m未満まで巻き上げたり、0セットを行ったりした場合、再度アラームがメモ水深をお知らせします。

2通りの棚の取り方・上からモードと底からモード



棚取りに便利な「上からモード」と「底からモード」。

船釣りで釣果を上げるコツは、いかに正確に魚のいる水深(すなわち棚)にシカケを降ろすかということです。

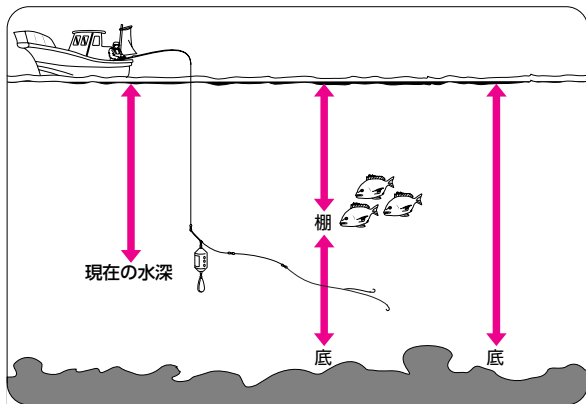
最近では高性能の魚群探知機により、魚のいる水深が正確にわかります。

通常、船長がこの棚を教えてください。この場合釣場、釣り方、対象魚などによって水面から棚が指示される場合と、海底す

なわち底から棚が指示される場合の二通りがあります。

本製品は底からの水深を確認したい場合、メモ水深の表示方法を切り替えできます。

その日の釣りに合わせて、切り替えてご使用ください。

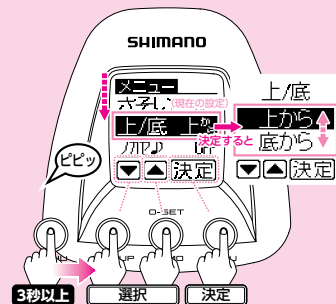


モードを切り替えるには…

電源を入れた際は上からモードで起動します。

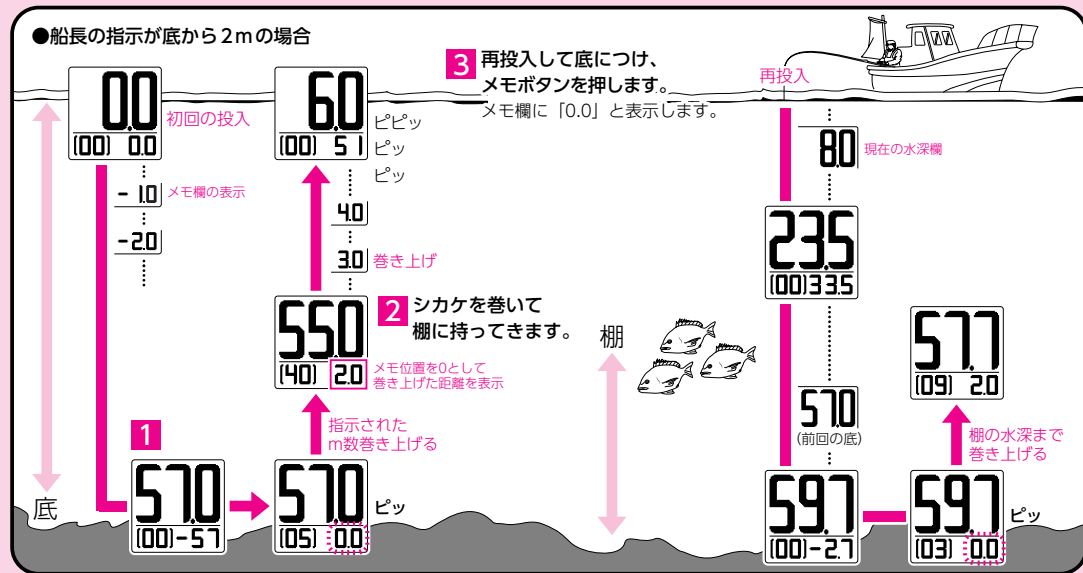
1. 水深画面でMENU(メニュー)ボタンを3秒以上押すとメニュー画面が表示されます。
2. ▼ボタンを数回押して「上/底」を選択します。機能名の右は現在の設定を表します。(図の設定は例です。)決定 MENU(メニュー) ボタンを押すと「上/底」のメニューが表示されます。
3. ▼▲ボタンで「上から」または「底から」を選択し、決定 MENU(メニュー) ボタンを押してください。

メニュー画面の操作について、詳しくはP11～14をご参照ください。



次ページにつづく →

底からモードの実釣編



- 1 シカケが底についたら、MEMOボタンを押します。
MEMO欄に「0.0」と表示します。
リールを巻き上げるとプラスにカウントし、底からの水深が確認できます。

解説!

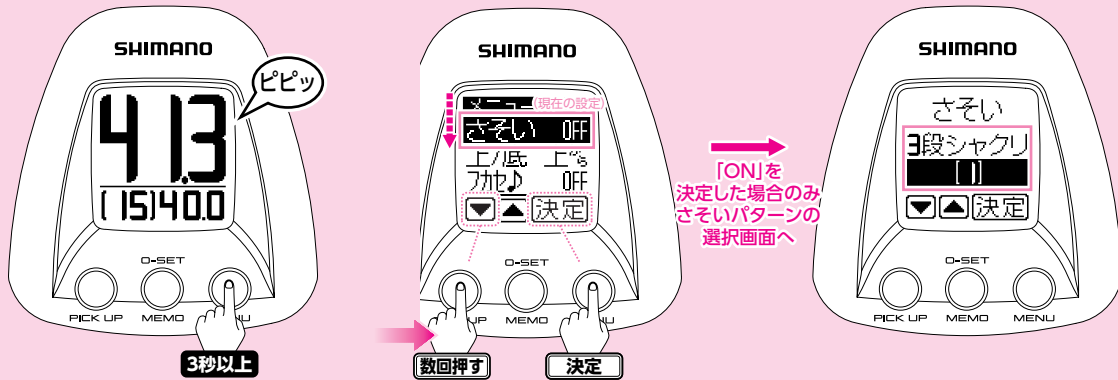
船長の指示が「底から何m」といった場合、釣り人はシカケをいったん底まで降ろして指示されたm数だけシカケを上げます。(通常この時にコマセを振りまします。)

さそいの準備



名人のさそい、またはお好みのさそいをリールが再現します。

一日中シャクリ続けるイカ釣りには特に便利です。



- 1** 電源を入れた際は、さそい機能OFFで起動します。
水深画面で **MENU**(メニュー) ボタンを3秒以上押すとメニュー画面が表示されます。

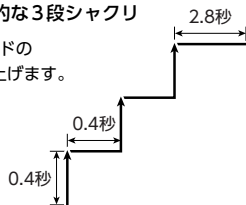
注意:液晶画面内の設定・数値は例として表示しています。実際と同じ設定・数値を示すわけではありません。

- 2** ▼ボタンを数回押して「さそい」を選択します。
機能名の右は現在の設定を表します。(図の設定は例です。)
決定 **MENU**(メニュー) ボタンを押すと「さそい」のパターン番号の選択画面になります。
(メニュー画面の操作について、詳しくはP11～14をご参照ください。)

- 3** さそいパターン番号の選択画面です。
[1]～[3]は次ページ右記のさそいパターン、
[4]と[5]はお好みのさそいパターンとなっています。
[4]・[5]は、出荷時には超スロー巻き上げのデータが入っています。お好みで新しいさそいパターンを入力し直すことができます。

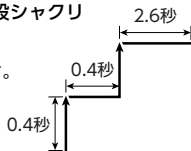
[1] …代表的な3段シャクリ

速度一定モードの
28速で巻き上げます。



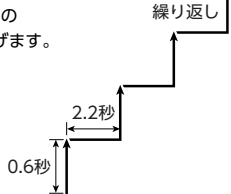
[2] …代表的な2段シャクリ

速度一定モードの
28速で巻き上げます。



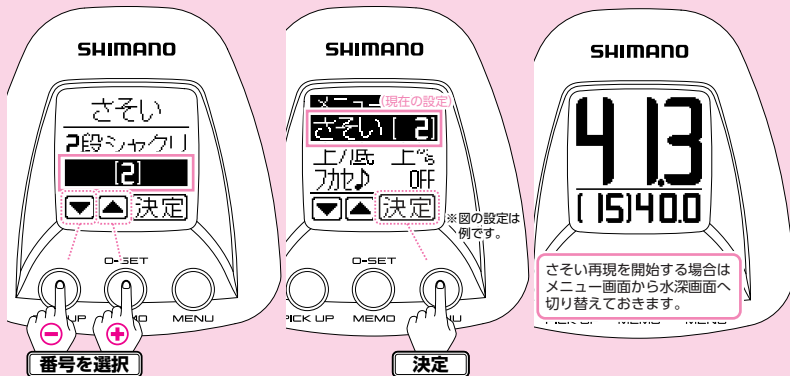
[3] …ウィリーの代表的なさそい

速度一定モードの
16速で巻き上げます。



[4]・[5] …お好みのさそいパターン

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。



4 ▼▲ボタンでさそいパターンの番号を選択してください。

※ご注意

あらかじめ記憶しているさそいのパターンは代表的な例であり、竿の調子・オモリ負荷・水深等、条件によって動作は変化します。実情に合わない場合はお客様オリジナルのパターンを入力の上、再現される事をお勧めします。

[4]・[5]のお好みのさそいパターンを選択される場合は、ここから次ページ「さそいの学習」へお進みください。

5 決定 MENU(メニュー) ボタンを押せばメニュー画面に戻り、設定完了です。

(図は[2]を設定した場合の例です。)

メニューの「水深画面へ」を決定して水深画面へ戻ります。

これでリールにさそいを再現させる準備ができました。

さそいを開始する場合はP63「釣りでさそい機能を使用する」へ進みます。

さそいの学習

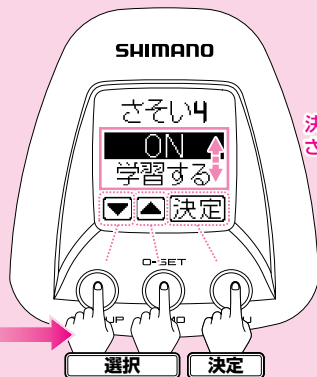


あなたのオリジナルのさそいパターンも学習・再現できます。



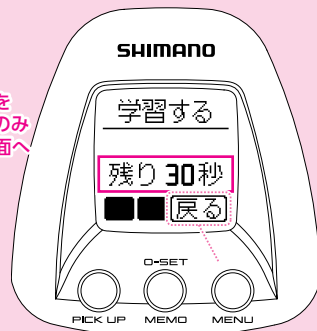
- 1** さそいパターンの[4]か[5]を選択し、決定 MENU(メニュー)ボタンを押してください。

注意：液晶画面内の設定・数値は例として表示しています。実際と同じ設定・数値を示すわけではありません。



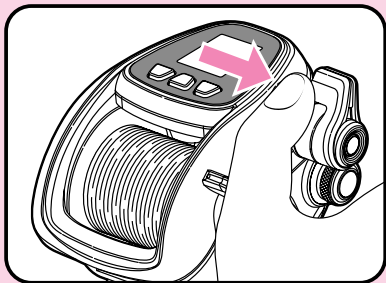
- 2** さらにメニューが表示されます。
[4]か[5]にすでに入力済みのお好みのパターンを選択する場合は「ON」、新しいパターンを入力し直す場合は「学習する」を選択し、決定 MENU(メニュー)ボタンを押してください。
「ON」を決定した場合はメニュー画面に戻り、さそい再現の準備が完了します。

「学習する」を決定した場合のみ
さそい学習画面へ



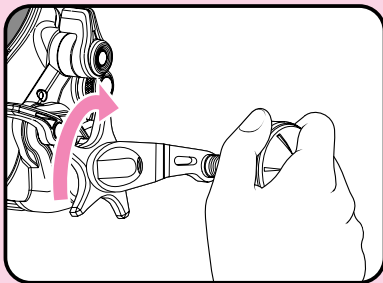
- 3** 「学習する」を決定した場合のみ、ここでさそい学習画面になります。
さそい学習は最大30秒間記憶させることができます。
□部分に記憶可能な秒数が表示されます。
レバーやハンドルで巻き上げ始めると記憶を開始し、同時に記憶可能な秒数のカウントダウンが始まります。
さそい学習を中止したい場合は、[戻る] MENU(メニュー)ボタンを押してください。

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。



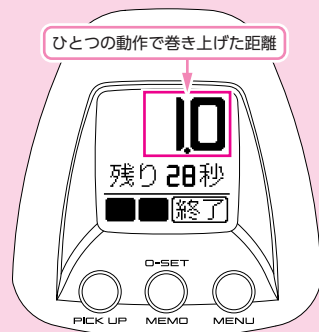
●テクニカルレバーで入力する場合

記憶させたいタイミングと速度で巻き上げ、その後の静止状態も必要に応じて入力します。



●ハンドルで入力する場合

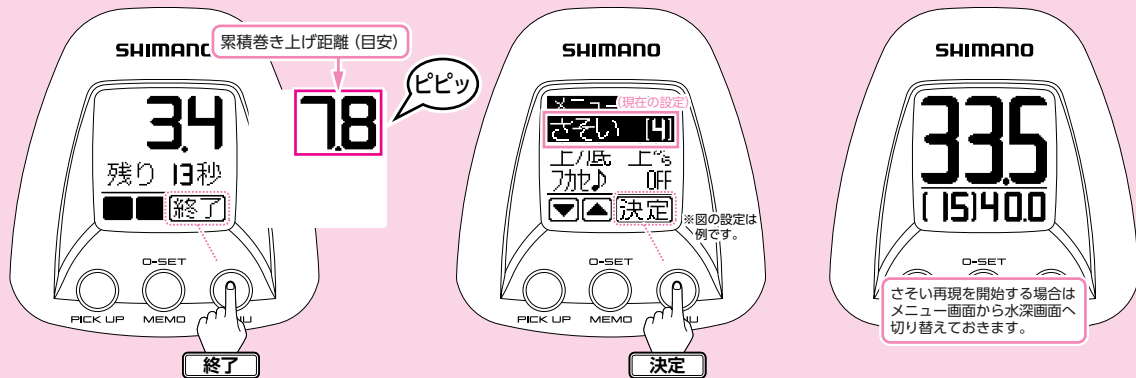
好みの速さでハンドルを回転させ、その後の静止状態も必要に応じて入力します。ハンドル1回転に2秒以上要する超スローな巻き上げは学習しません。また、テクニカルレバーの最高速度以上でスプールが回転した場合は、テクニカルレバーの最高速として学習します。



- 4** テクニカルレバーかハンドル操作でさそい学習を開始し、お好みの巻き上げ時間、停止時間を再現してください。記憶可能な残り秒数のカウントダウンが開始し、10部分にひとつの動作ごとに巻き上げた糸の長さを表示します。

次ページにつづく

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。



- 5** 終了 MENU(メニュー) ボタンを押せばさそい学習が完了します。
決定 MENU(メニュー) ボタンを押さなかった場合は学習開始から30秒で自動的に終了します。カウントダウンがスタートした時点からのしゃくり、さそいが記憶されます。
さそい学習終了時は累積巻き上げ距離の目安が図のように2秒間表示されます。(□部分)

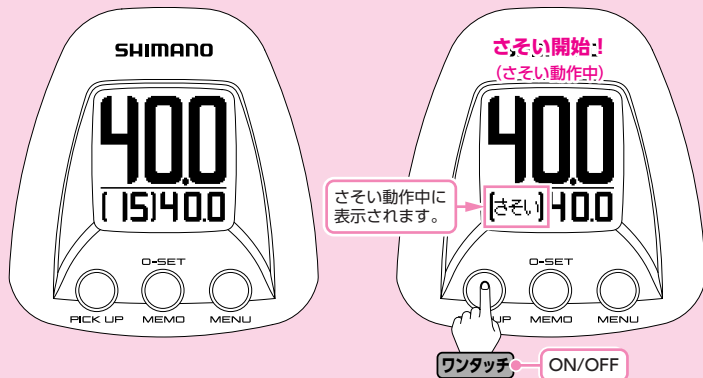
- 6** 2秒後、自動的にメニュー画面に戻り、設定完了です。
(図は[4]を設定した場合の例です。)
さそい学習を間違えたり、やり直したい場合は、再度メニュー画面からさそい学習へ進み、動作を入力してください。
※新たにさそい学習を入力すると、前の学習データは消えます。

メニューの「水深画面へ」を決定して水深画面へ戻ります。
これでリールにさそいを再現させる準備ができました。
さそいを開始する場合は次ページ「釣りでさそい機能を使用する」へ進みます。

釣りでさそい機能を使用する



さあ！
いよいよ設定したさそいを再現してみましょう。



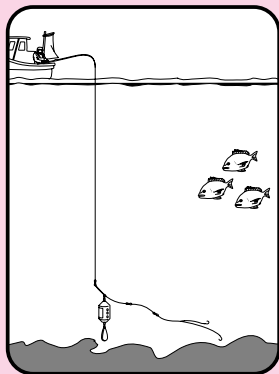
- 1** P58～62をご参照いただき、さそい機能をONに設定しておきます。
メニュー画面が表示されている場合は、メニューの「水深画面へ」を決定して水深画面に切り替えてください。

注意：液晶画面内の設定・数値は例として表示しています。実際と同じ設定・数値を示すわけではありません。

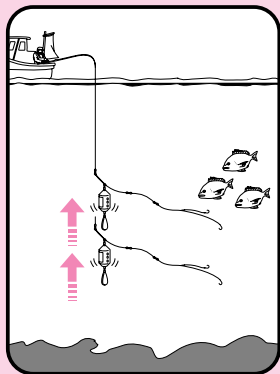
- 2** シカケを棚までおろし、さそいボタンを押すと、記憶したさそいパターンをくり返し行います。
さそい動作中は水深画面に「さそい」が表示されます。
※さそい機能のON時は、チョイ巻機能は自動的にOFFになります。
さそい動作の途中停止、再スタートもさそいボタンを押します。
※船べり停止以降はモーター停止します。

次ページにつづく

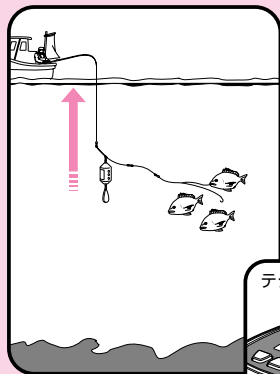
注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。



さそいボタンON
さそい開始！



さそい動作再現中



アタリ！巻き上げ

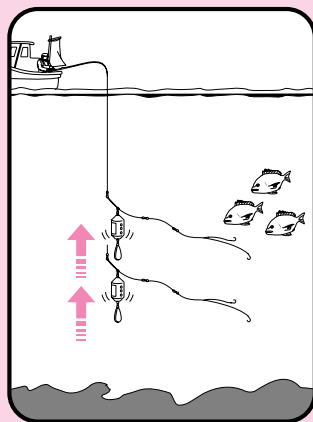


テクニカルレバーで
巻き上げ



- 3 アタリがあればテクニカルレバーで巻き上げます。

魚を取り込み、もう一度仕掛けをおろして
さそい動作を行いましょう。



さそいボタンON
再びさそい開始!

仕掛け回収で船べり自動停止後、同じさそい動作を続ける場合、シカケをもう一度棚までおろします。

変更する場合はメニュー画面からさそいを設定しなおしてください。

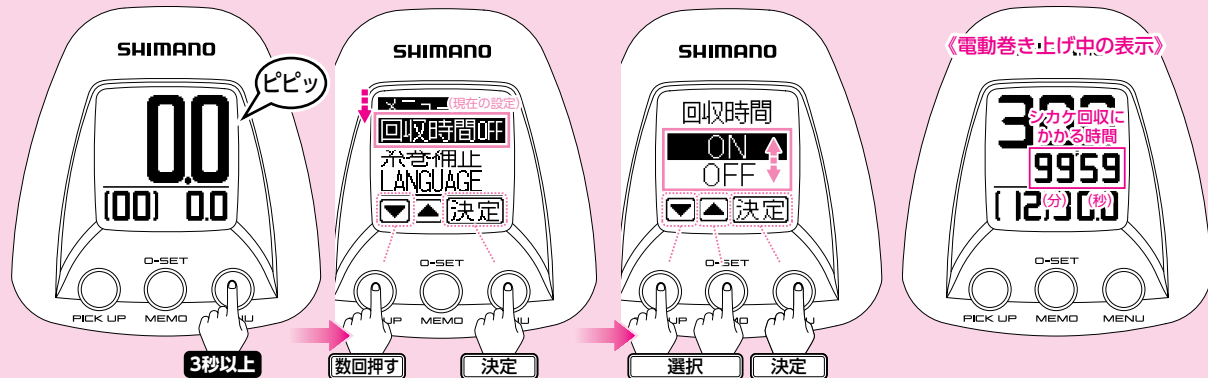
シカケをおろした後、さそいボタンを押すと、再度記憶した動作をくり返し行います。

仕掛回収時間



電動巻き上げ時、シカケが船べりに回収されるまでにかかる時間を表示します。

仕掛回収時間のON/OFFは下記の操作で可能です。



1 電源を入れた際は仕掛回収時間OFFで起動します。図の水深表示はOFFになっている場合の例です。
水深画面で MENU(メニュー) ボタンを3秒以上押しすとメニュー画面が表示されます。

注意：液晶画面内の設定・数値は例として表示しています。実際と同じ設定・数値を示すわけではありません。

2 ▼ボタンを数回押しして「回収時間」を選択します。
機能名の右は現在の設定を表します。
(図の設定は例です。)
決定 MENU(メニュー) ボタンを押すと「回収時間」のメニューが表示されます。
▼▲ボタンで「ON」または「OFF」を選択し、決定 MENU(メニュー) ボタンを押せば設定完了です。
(メニュー画面の操作について、詳しくはP11～14をご参照ください。)

仕掛回収時間ONを決定した場合、水深画面に戻ると表示が図のように変化し、電動巻き上げの際にシカケ回収にかかる時間を表示します。
最大で99'59(99分59秒)まで表示し、これ以上かかる場合は「99'59」の点滅となります。



シカケの巻き込みを防止し、アタリをお知らせします。

フカセモード時は以下の2つの機能が有効になります。

1 仕掛巻込防止機能

フカセ釣りの様な軽負荷の釣りにおいては、シカケだけの回収、魚が掛かっての回収で負荷が大きく変わります。

電動リールの糸巻き学習は一定の負荷で回転数を記憶させているため、負荷の変動が大きいと誤差も大きくなり、ナイロン、フロロと伸びの大きい道糸を使用されますと、さらに誤差が大きくなります。時には竿の穂先にシカケを巻き込んで、穂先の破損をまねく場合もあります。

フカセモードがONの場合、穂先の巻き込みを防止するプログラムが働き、安全、快適に釣りを楽しむことができます。本プログラムは、シカケを回収している際のリールの負荷が大きいと感じた時は船べり停止を6mに設定し、負荷が軽いと感じた時は出した糸の量の10% (100m出せば10m、6m以内になるようなら6m) で船べり停止を設定します。

※どちらもカウンター表示での数字となるため、実際のメートル数とは異なってきます。20速以上でこの機能はONとなりますので軽負荷で20速未満で巻きますと、穂先に巻き込む場合もあります。

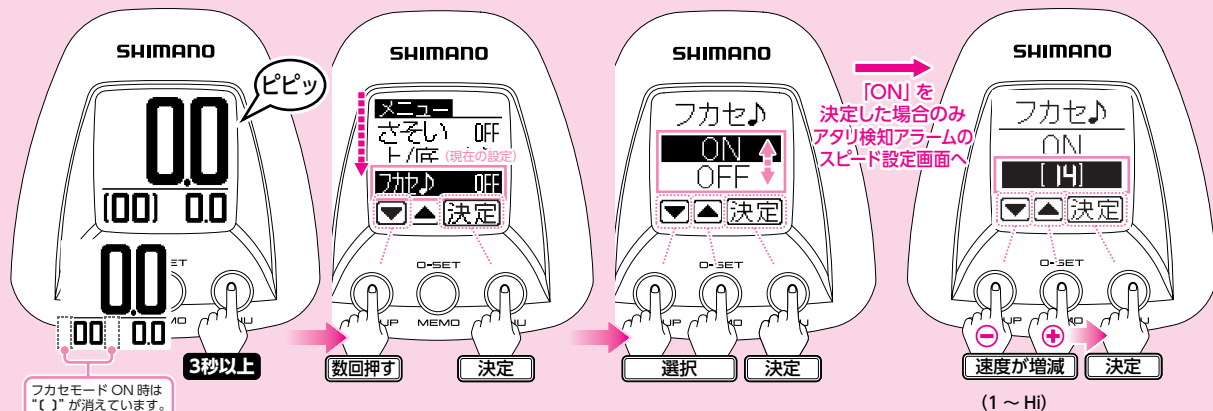
2 アタリ検知アラーム

クラッチ OFF で糸を出している状態で、設定した速度よりも早いスピードで糸が引き出された時にアタリアラーム「ピッピッピッ… (3秒間)」が鳴り、アタリを知らせてくれます。また、その設定値はお客様で変える事も可能です。初期設定は“OFF”となっています。

※モーターがOFFの状態でもカウンター表示20m以上の時に有効です。

※設定速度の変更は、メニュー画面からフカセモードONを決定すると表示される設定画面で行えます。(次ページ参照)

フカセモードの ON/OFF、アタリ検知アラームのスピードの設定について…



- 1** 電源を入れた際はフカセモードOFFで起動します。糸巻学習「フロロ学習 E2」の終了後は、フカセモードが自動的にON になります。
※フカセモードON時は水深画面の“()”が消えています。
水深画面で MENU(メニュー)ボタンを3秒以上押すとメニュー画面が表示されます。

注意：液晶画面内の設定・数値は例として表示しています。実際と同じ設定・数値を示すわけではありません。

- 2** ▼ボタンを数回押して「フカセ♪」を選択します。
機能名の右は現在の設定を表します。(図の設定は例です。)
決定 MENU(メニュー)ボタンを押すと「フカセ♪」のメニューが表示されます。
▼▲ボタンで「ON」または「OFF」を選択し、決定 MENU(メニュー)ボタンを押してください。
(メニュー画面の操作について、詳しくはP11～14をご参照ください。)

- 3** 「OFF」を決定した場合はメニュー画面に戻り、設定完了です。
「ON」を決定した場合のみ、アタリ検知アラームのスピード設定画面になります。

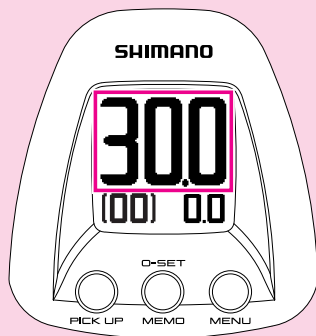
アタリ検知アラームのスピードの設定

数値を ▼▲ボタンで増減してお好みのスピードに設定し、決定 MENU(メニュー)ボタンを押してください。

※1～Hiまで設定できます。
初期設定は14です。

← 888
糸巻学習補正

カウンターの水深と実際のラインマーカのずれを補正することでより正確な棚取りを行えます。



もしくは



1 カウント値が10m以上の時に有効です。
現在の水深表示を切りのいい数値(少数以下を0)に合わせてください。

少数以下を0にしますとラインマーカで合わせるができます。ラインの色が変わる前後(10m単位)がより分かり易くなります。

※100mを超える場合、例えば表示が199から200に変わった所で合わせて頂くと、より正確な補正となります。

2 A・Bいずれかの操作で糸巻学習補正に入ってください。

2通りの操作方法があります。いずれの操作からも同様に補正を行うことができます。

① メニュー画面からの操作

MENU(メニュー) ボタンを3秒以上押し、メニュー画面が表示されます。

▼ボタンを数回押しして「糸巻補正」を選択し、決定 MENU(メニュー) ボタンを押してください。

(メニューの操作の詳細はP11～14参照)

② ボタンによる操作

O-SET(0セット) ボタン、MENU(メニュー) ボタンを両方同時に3秒以上押しと糸巻学習補正に入ります。
「ピピッ」のアラームが鳴ります。

※この方法で行った場合、補正完了後は水深画面に戻ります。

次ページにつづく

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。



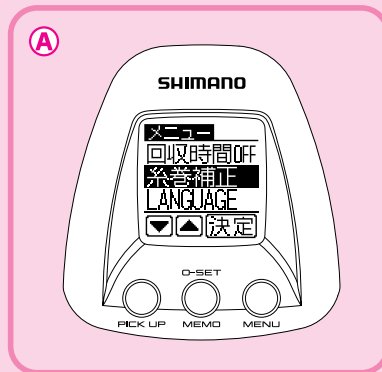
3 ここで、実際の糸の位置 (例図の場合ですと30m)を水面に合わせてください。

※この時、糸を出し入れしても表示は変わりません。

※ただし、モーターの作動(補正中の巻き上げ、魚が掛かった場合等)はキャンセルとなります。中断した場合は前回の補正値が使用されます。

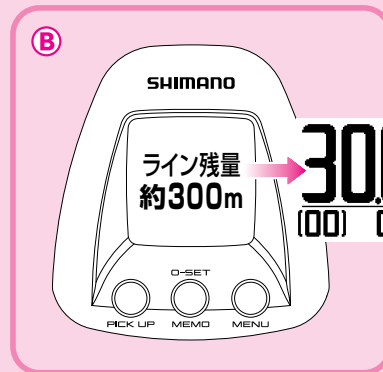
決定 MENU(メニュー) ボタン を押して補正を確定してください。

「ピピッ」のアラームが鳴ります。



(A) のメニュー画面からの操作の場合

メニュー画面に戻り、補正が完了します。
メニューの「水深画面へ」を決定して水深画面へ戻ると、補正後の水深が表示されます。



(B) のボタン操作からの場合

水深画面に戻り、補正が完了します。
現在の水深画面に補正後の水深が表示されます。

補正を確定されますと電源をOFFされても、糸巻学習は補正されたまま記憶されます。

ライン残量が表示される条件

糸巻学習後から補正された時にライン残量が表示されます。

※ライン残量を確認されたい場合は、リールデータより確認できます (P13参照)

1

あ!
カウンターと道糸の
マーカがずれている!!

100m

海

2

その時は
糸巻学習補正
があるよ!

どうするの?

MENUボタン
3秒以上押しで
メニュー画面へ

メニューから
「糸巻補正」を
選択して決定します。

3秒以上

※もしくは水深画面の状態から…
OSETボタン・MENUボタン同時3秒以上押し
でも糸巻学習補正に入ることができます。

同時3秒以上

3

水深が表示されたけど
糸を出し入れしても
動かないよ!

103

表示の水深に
補正して下さい

決定

4

そう、その時に
カウンター表示と道糸のマーカが
同じになる様に道糸を出し入れし、

103m

決定 (MENU) ボタンを
押せば **OK!**

ワンタッチ

次からバッチリ!

お取り扱い上の注意

本製品は精密部品で構成されていますので、下記注意事項を守ってお取り扱いください。また、釣行後の手入れを十分行ない、未永くご使用ください。

1 リールのお手入れ方法

※お手入れの際には必ずケーブルを抜きコネクターキャップを閉めて、リールを完全に冷ましてから行ってください。まずドラグをしっかり締め込んでください。水道水をリールにかけながら、リール外側の汚れをスポンジで落とします。

洗浄の方法を動画でご紹介しています。

↓こちらをご確認ください

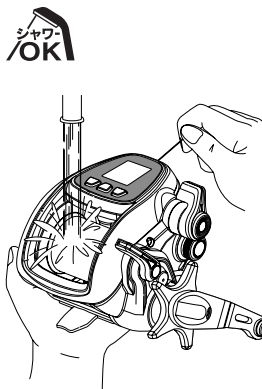


※水中に浸けて洗わないでください。

スプールと本体の間に水道水をかけながらクラッチを切って道糸を2~3m出します(図参照)これによりスプール軸受け部に付着した塩分を洗い流せます。

ドラグを目一杯ゆるめ、影干してよく乾燥させてください。

※ケーブルのワニ口部分には海水中の不純物が付着している場合がありますので、必ず水道水で洗い流すか軽くブラッシングしてください。



※ベアリングの塩噛みについて

S A-RB (シールド耐塩水ベアリング) はベアリング本体、シールドともに錆びにくい物になっています。しかしシールドはベアリング内部に塩水が浸入して発生する『塩噛み』を完全に防ぐものではありません。ベアリング内部に塩水が浸入して乾燥すると、塩噛みを起こす場合があります。錆びている訳ではありませんが、音なり、ゴロ付き等の症状が出ることがあります。解消するためには、程度にもよりますが、S A-RB を取り出して水道水で洗い流して塩抜きするか、または、S A-RB ごと交換する必要があります。メンテナンスをお受けいただくことをお勧めします。

※保管の際は必ずリールからケーブルを外して保管してください。

2 リールのお手入れ方法 (スプール回転性能に低下が見受けられた場合)

●通常のお手入れ方法にて、スプール回転がスムーズでないと感じられた場合(リールのハンドル側ベアリングの塩カミによる場合) ※ケーブルを必ず抜いた状態で行ってください。

1. リールのハンドル側のスプールと本体の間までリールを浸水させて(右図参照・リール全体を浸水させないでください。)スプールを回転させますと、ベアリングに噛み込んでいる塩が抜けて回転性能がUPします。
2. リールを水から引き上げてリールのコネクター側を下にして、水を排水してください。(リール内部に溜まった水を完全に排水させます。)



上記を行っても改善が見られない場合はオーバーホールに出してください。

3 ご使用上の注意

- 電動リールの構造上、モーターがONで、糸が巻き込めない状態（糸が掛かりドラッグがすべっている状態）になることがありますが、これは車に例えるならサイドブレーキを掛けたまま走ることと同じです。電動リールもこの状態を長く続けると、ドラッグ部分のオイル焼け→ドラッグ焼け→本体の破損へとつながります。くれぐれもご注意の上ご使用ください。
- 根掛かりした時には、竿やリールで無理にあおらないで、できるだけ釣場に糸の残らないように引き寄せて切ってください。
- リールはていねいに扱ってください。移動時、特に放り投げやバッグ内で他の道具との接触による破損には十分ご注意ください。
- リールは落としたり衝撃を与えないよう、丁寧に扱ってください。
- 船の竿立てに収められる時は、リール後部及びケーブルに衝撃を与えないよう、また、ケーブルを折り曲げないようにご注意ください。特にケーブルをリールと船べりの間にはさまないようにご注意ください。
- 偏光ガラスの種類によってカウンター液晶画面が見にくくなる場合があります。
- 高負荷巻き上げ後に仕掛け投入して巻き上げる時は注意してください。仕掛けを穂先に巻き込む可能性があります。
- 樹脂脚を採用しているリールにおきましては、金属製リールシートでご使用されますと傷が入り、最終的に破損に至る場合がございます。パイプシート内部にリール脚保護用樹脂が装着されているかどうか確認の上、ご使用ください。
- スーパーフリースプールを採用しているリールにおきましては、モーターがONになっている状態でクラッチをONにしますと、クラッチの故障の原因になります。必ずモーターがOFFになっていることをご確認の上、クラッチをONにしてください。
- スーパーフリースプールを採用しているリールにおきましては、クラッチをOFFにして糸を出す時は、レベルウィンドは動きません。ドラッグが滑っている時は、レベルウィンドがスプールと同期しない場合があります。
- 静電気により一時的に液晶の表示しない部分ににじみ現象が発生することがありますが、機能に影響はありません。

- メモリーバックアップ(カウンター情報の保存)機能について、1度電源を10分以上つなぐとメモリーバックアップ機能が働きます(目安時間30分※)。使用中、電源との接続が切れた場合、表示は消えますが、電源との再接続時には表示が消える直前の水深表示に戻ります。※常温(20~25℃)における目安時間。常温以外では記録保持時間は短くなる場合があります。

次ページにつづく

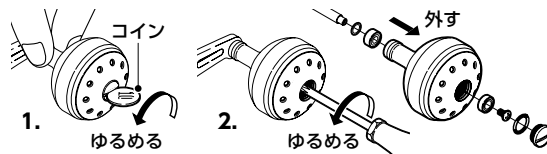
4 お手入れの方法

- 定期メンテナンス - 弊社サービスへご依頼ください。
リールの状態は、使用頻度のみならず、使用環境、使用方法、対象魚等によって大きく変わります。回転時の異音、違和感を感じられたら、お買い上げの販売店を通じて弊社サービスへお預けください。
- 定期メンテナンスとして、半年に1度はお預けいただくことをおすすめいたします。
- 保管の際は必ずリールからケーブルを外して保管してください。
- リールを使用にならない時はコネクターキャップをしてください。
- リールは絶対に分解しないでください。内部にはモーター、プレーカーなどの電気部品が入っていますので故障の原因となります。
- ドラグ部分には絶対オイルを付けしないでください。オイルが入るとドラグ力が低下することがあります。
- 高温、高湿の状態です長時間放置されますと、変形や強度劣化の恐れがあります。長期保存される場合は、前記の手入れを実施後、風通しの良い場所で保存してください。
- リール本体、特にカウンターユニット部は、水没させないでください。



● ハンドルノブの取り外し方

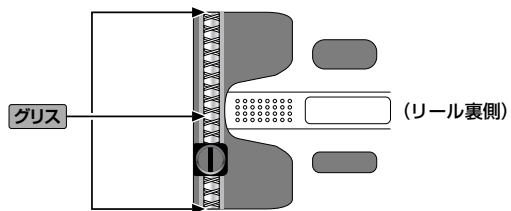
1. ノブを手で押さえながら、コインでハンドルノブキャップをゆるめて取り外します。
2. ドライバーでノブ内部のボルトをゆるめて外します。



- お手持ちのリールを末永くご愛用いただけるよう、シマノリール専用グリス（下記）を使用してください。指定の箇所に付けていただくようお願いします。

シマノ純正リールグリススプレー（SP-023A）

ウォームシャフトとウォームシャフト両側



5 セーフティ機能

●自動復帰ブレーカー

電動リールに過負荷がかかった場合、リールを保護するため最大2秒間モーターを停止し自動復帰しますが、異常ではありません。その状態が続けますと最終的には自動復帰ブレーカーが作動します。作動中は「ブレーカー」の文字が点滅します。(魚探表示ONの場合は、「**BRK**」マークが点滅します。)

作動した際は、モーター保護のためモーターを動作させずに5分以上休ませてください。(この際、ハンドルで糸を巻いたり、クラッチを切って糸を出したりしても糸巻学習は保持され、カウンターは正常に働きます。)[ピピッ]のアラームが鳴り「ブレーカー」の表示が消えればブレーカーは復帰です。

ご注意:

- ブレーカーが作動している間は、電源をOFFにした場合でも復帰されません。
- ブレーカーが作動する種類により、ブレーカー解除までに30秒～3分程度の時間がかかります。



●バッテリー検出表示

バッテリー電圧が10.5V以下になった場合、またはケーブル・コネクターの接続不良がおこると、バッテリーマークが点滅します。バッテリーマークが点滅したら、ケーブル・コネクターの接続不良がないかをお確かめください。接続不良ではない場合、バッテリー残量が少ないことが考えられます。



●テクニカルレバー断線の場合

右記のエラーメッセージが出ましたら「製品のお問い合わせ・アフターサービスのご案内」の項目を参照していただき、修理に出してください。

* 下記が表示された際には糸を出したり巻いたりしないでください。糸巻学習が不正確になります。



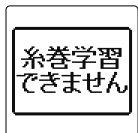
●電圧が高すぎる場合

電圧が高すぎる場合、ブレーカーが作動します。
ご使用の電源が12V～16.8V仕様かどうか確かめください。



●糸巻学習操作が不正確な場合

糸巻学習操作が不正確な場合の表示です。お手数ですが、再度学習をおこなってください。



仕様

実用巻上持久力

6.5kg

長時間耐久維持
できる巻き上げ力

実用巻上持久力とは負荷を
どんどん増やしていった際に、
最終的に電動リールのブレー
カーが作動したときの負荷を
表示したものです。

最大巻上速度

150m/分

無負荷時の巻き上げ速度の
値です。

最大ドラグ力

15.0kg

シマノの船リールで表示して
いる最大ドラグ力は、人間が
片手で締め込める力を30kg・
cmとし、そのときのドラグ力
を最大ドラグ力と表現してい
ます。

実用巻上速度

1kg (負荷)	5kg (負荷)
129m/分	108m/分

水深100mのシカケ回収に要する時間

実用巻上速度とは、たとえば3000番のリールならPE6号
糸を300m巻いた上で100m引き出し、指定の負荷を掛
けてMAXで巻き上げます。

その時にかかった時間を速度に変換した値です。

測定条件：◎電源は13V◎常温15~20℃(リチウム等高電圧
の電源を使用されますと、さらにハイスピードになります。)

※データは使用環境条件等で若干変動する場合があります。

品番	ギア比	自重 (g)	糸巻量(号-m) PE	糸巻量(号-m) フロロ	最大巻上長 (cm/ハンドル 1回転)	ハンドル長 (mm)	ベアリング数 (ボール/ローラー)
3000	3.9	685	4-450 5-350 6-300 8-200	5-420 6-350 7-300 8-240	70	75	4/0

●電源 (直流)

DC12V (リチウムイオンバッテリー可)

●ご注意

PE3号以下を使用される場合は糸を巻きすぎたり、バックラッシュ等を行いますと糸が細いため、スプールとフレームのすき間に入り込んでしまう場合がありますので注意してください。

故障かな?と思われたときは

こんなとき	操作	参照
液晶が真っ黒、及び全文字が現れる。	高温度の雰囲気(車のトランクの中等)にさらされた時に生じる場合がありますが、温度が下がるにしたがって正常にもどります。	
液晶が表示しない。	バッテリーとケーブルの(+) (-)とが正しく接続されているかをお確かめください。 バッテリー容量が不足していないか、ご確認ください。 ケーブルのワニ口部分に不純物が付着していないかご確認ください。	P17
液晶が表示しない。(極寒で使用的場合)	液晶の特性上-15℃以下で放置されますと、電源をつないでもしばらくの間表示しません。 (電源がONの状態になり、カウンター内部の基板が温まれば表示されます。) 極寒で使用される場合、船がポイントに着くまでは電動リールをキャビンに入れてもらうかカバーを付け、保護することをおすすめします。	
糸巻学習がセットされない。	お手数ですが再度学習の上、ご確認ください。	P19~44
ラインを送り出してもカウントしない。	お手数ですが再度学習の上、ご確認ください。	P19~44
誤差が大きい。	お手数ですが再度学習の上、ご確認ください。	P19~44
カウンター表示と、糸の水深色分けとが一致しない。	糸の種類により、程度の差はありますが、使用中に糸が伸びることによりカウンターの表示との間にズレを生じる場合があります。	
船べり停止位置が違う。	巻き上げのテンションや糸の伸びの影響とされます。水面での0セットを行なってください。 また、入力可能な船べりセットは、1m~6m未満の範囲です。 1m未満のセットは安全のため1mに設定しています。	P46~47
液晶表示はするがモーターが作動しない。	バッテリーの容量が十分かどうかご確認ください。 ※モーターが低速では作動するが、高速では作動しない場合もバッテリーの容量不足が考えられます。バッテリーを充電のうえ、ご確認ください。なお、充電しても正常に作動しない時は、バッテリー寿命が考えられますので、新しいバッテリーと交換し、再度ご確認ください。 リールが低温(0℃以下)になりますと、モーターが作動しなくなる場合があります。 極寒で使用される場合、船がポイントに着くまでは電動リールをキャビンに入れてもらうか、電源ONしておいてください。 また、カウンター1m以内では安全のためモーターは作動しません。	P17

こんなとき	操作	参照
巻き上げ中にモーターが停止する。	電源コネクターのネジがしっかりと締め付けられているかご確認ください。船電源の端子や、リールやケーブルのコネクタ部分や、ケーブルのワニ口のスビと塩の結晶の付着による通電不具合が生じることがあります。スビや塩の結晶を落としてからもう一度ご確認ください。また、バッテリー容量が不足していないか、ご確認ください。	P17
電動リールから、巻いていないのに変な音がする。	不安定な電源から電動リールを守る為に、デジタルカウンター内部にコンデンサーを入れています。ご使用されています電源が不安定な状況下（ノイズ等や電圧降下）では、このコンデンサーが振動し音が聞こえる場合がありますが、リール機能には一切支障はございませんので安心してご使用ください。	
カウンターに「糸巻き学習できません。」の文字が表示される。	セーフティ機能に基づくエラーメッセージです。「セーフティ機能」のページをご確認ください。	P77
電源投入時に英数字が2秒間表示される。	識別のための表示で、故障ではございません。表示内容は機種ごとに異なります。	

釣りを楽しく行っていただくために、釣行前には必ず電源を入れて本製品が正常に作動することをご確認くださいませますようお願いいたします。

(1.1m 以上糸が出た状態にならないとモーターは作動しません。)

以上の確認を行なっても直らない場合は、お手数ですがお買い上げになった販売店にお預けください。その際に故障内容をできるだけ詳しくお伝えください。

製品のお問い合わせ・アフターサービスのご案内

リールのメカニズムの説明には書面で表しにくいことがあります。
手紙でのお問い合わせにつきましては、必ずお客様の電話番号をお書き添えくださるようお願いいたします。

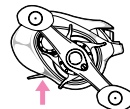
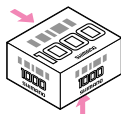
- 修理に出されるときには保証書と製品、ケーブルをお持ちになり、お買い上げの販売店へ現品をお預け願います。
その際には必ず、修理箇所、不具合内容を具体的に(例/ストッパーが働かない)お知らせください。
また、お近くにシマノ商品取扱店がない場合は、最寄りの営業所へお問い合わせください。
修理品は部品代のほか工賃をいただきますのでご了承ください。商品の故障等によって生じる他のタックルの破損、紛失、釣行費等は保証できません。

- ご自分で修理をされる場合の部品や替えスプールのお取り寄せは分解図をご覧ください、製品名・商品コードもしくは製品コード・部品番号・部品名をご指定の上、お買い上げの販売店にご注文ください。
(内部の部品に関しましては、複雑ですのでリール本体ごと修理に出されることをお勧めします。)

例/製品名 : PLAYS 3000
商品コード : 046666
製品コード : 5RG821A20
部品番号 : 12
部品名 : ハンドル組

- 弊社ではリール、釣竿の補修用性能部品の保有期間を、製造中止後6年間としています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。修理対応期間を過ぎた場合は修理をお断りすることがございます。性能部品以外は製造中止後6年以内でも供給できない可能性があります。

- 商品コード / 製品コードの位置
パッケージ底面もしくは側面に製品コード及び商品コードを表示しています。又、製品には商品コードを表示しています。



株式会社シマノ全国サービスネット

株式会社シマノ 埼玉営業所

〒362-0043 埼玉県上尾市西宮下3-194-1

株式会社シマノ 東京営業所

〒143-0013 東京都大田区大森南1-17-17

株式会社シマノ 名古屋営業所

〒454-0012 愛知県名古屋市市中川区尾頭橋2-6-21

株式会社シマノ 大阪営業所

〒590-8577 大阪府堺市堺区老松町3丁77番地

株式会社シマノ 中四国営業所

〒700-0941 岡山県岡山市南区青江6-6-18

株式会社シマノ 九州営業所

〒841-0048 佐賀県鳥栖市藤木町4-6

株式会社シマノ 釣具事業部 本社：〒590-8577 大阪府堺市堺区老松町3丁77番地

●探見丸システム、商品の性能・スペック、カタログ、イベントやアフターサービスなどに関するお問い合わせ

フリーダイヤル ☎ 0120-861130 (ハローイイサオ) をご利用ください。

受付時間：AM9:00～12:00・PM1:00～5:00 (土・日・祝日除く)

■シマノホームページ アドレスは www.shimano.com です。

新製品情報・釣り情報など、フィッシングライフに役立つ、シマノならではのオリジナル情報を発信しています。

また、カタログのお申し込みも受け付けています。



此标记表示环保使用期限，其遵循以下标准：

SJ/T 11364-2014 电子电气产品有害物质限制使用标识要求

SJ/Z 11388-2009 电子信息产品环保使用期限通则

部件名称 (Parts name)	有害物质 (Hazardous substances)					
	铅 Pb	汞 Hg	镉 Cd	六价铬 Cr VI	多溴联苯 PBB	多溴二苯醚 PBDE
印刷电路板 (PCBA)	×	○	×	○	○	○
电线 (cable)	×	○	○	○	○	○
外壳 (case)	×	○	○	○	○	○
金属部件 (metal parts)	×	○	○	○	○	○

本表格依据 SJ/T 11364-2014 的规定编制。

○：表示该有害物质在该部件所有均质材料中的含量均在 GB/T 26572 规定的限量要求以下。

×：表明该有害物质至少在部件的某一均质材料中的含量超出 GB/T 26572 规定的限量要求。

然而，具有 x 的所有部件都符合 EU RoHS 指令 2011/65/EU 的要求。

All parts are compliant with European RoHS (2011/65/EU) requirements.

Toutes les pièces sont conformes aux exigences de la Directive européenne RoHS (2011/65/UE)

SHIMANO

糸落スピード表示について

糸落スピード表示

“〔 〕”が点滅中は糸落のスピードの目安を表示します。

糸落のスピードを安定させることにより釣果UPにつながります。

